

台東区高齢者実態調査報告書

概要版

令和5年2月

台東区

第1章 調査の概要など

I 調査の目的

本調査は、区内在住の高齢者の生活実態や保健・福祉への要望等を把握し、『第9期台東区高齢者保健福祉計画・台東区介護保険事業計画』策定のための基礎資料を得ることを目的として実施した。

II 調査の概要

1 調査の設計

調査名	調査対象者	調査数
①一般高齢者調査	65歳以上の区民 (要支援・要介護認定者を除く)	2,000人 (住民基本台帳から無作為抽出)
②介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	65歳以上の区民 (要介護認定者及び施設入所者を除く)	2,000人 (住民基本台帳及び要支援・要介護認定者台帳から無作為抽出)
③要支援・要介護認定者調査	65歳以上の要支援・要介護認定を受けている区民(施設入所者を除く)	2,000人 (要支援・要介護認定者台帳から無作為抽出)
④介護サービス事業者調査	区内にあるすべての介護サービス提供事業者	274事業所

2 調査方法

調査票を対象者に送付し、郵送・インターネットにより回収

3 調査期間

令和4年9月27日～10月19日

4 回収状況

調査名	発送数(通)	回収数(通)	回収率(%)	集計に活用した回答数 [*] (通)
①一般高齢者調査	2,000	1,269	63.5	1,254
②介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2,000	1,324	66.2	1,298
③要支援・要介護認定者調査	2,000	1,030	51.5	923
④介護サービス事業者調査	274	178	65.0	178
計	6,274	3,801	60.6	3,653

※名宛人が長期入院や施設入所などで不在である旨の回答があった場合は、「回収数」には含むが、「集計に活用した回答数」には含まれない。

第2章 調査結果の概要

I 調査結果の概要

1 主な共通項目の比較

一般高齢者調査（以降「一般調査」という）、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（以降「ニーズ調査」という）、要支援・要介護認定者調査（以降「認定者調査」という）の各調査において、同様の質問をしているものを抜粋し、共通項目として比較したうえで、テーマ別にまとめた。

調査票の回答者について、「本人」の回答は、一般調査では92.3%、ニーズ調査では93.1%、認定者調査では59.0%となっている。

(1) 家族構成と住まいの状況

「ひとり暮らし」は、一般調査では28.9%、ニーズ調査では26.6%、認定者調査では30.7%となっている。

日中独居の状況について、「一人で過ごすことはあまりない」は、一般調査では50.9%、認定者調査では45.0%となっている。また、「昼夜とも一人で過ごすことが多い」は、一般調査では23.6%、認定者調査では27.1%となっている。

「災害時や火災などの緊急時に、避難生活することができない」は、一般調査では10.2%、認定者調査では40.0%となっている。また、「災害時や火災などの緊急時に、安否確認・支援してくれる人がいない」は、一般調査では10.5%、認定者調査では13.7%となっている。

住まいの形態は、「持ち家（一戸建て）」「持ち家（集合住宅）」を合わせると、一般調査では78.5%、認定者調査では74.4%となっている。また、住宅で「特に困っていることはない」は一般調査では65.0%、認定者調査では57.7%となっている。

(2) 医療と介護保険制度

かかりつけ医は、「区内にある」が一般調査では67.6%、認定者調査では76.6%となっており、かかりつけ歯科医は、一般調査では64.6%、認定者調査では64.2%となっている。また、かかりつけ薬剤師（薬局）は、一般調査では63.4%、認定者調査では76.7%となっている。

病気やけがで長期の療養が必要となり、通院が困難になった場合に、在宅療養を「希望する」は、一般調査では32.1%、認定者調査では30.8%となっている。また、「希望するが、難しいと思う」「希望しない」と回答した人の理由は、「家族に負担をかけるから」が最も多く、一般調査では60.4%、認定者調査では52.1%となっている。

介護保険制度について、介護保険料とサービスは、一般調査、認定者調査ともに「施設や在宅サービスの量は現状維持とし、保険料も現状程度とするのがよい」が最も多く、一般調査では33.7%、認定者調査では40.8%となっている。

介護保険料の額は、「かなりの負担である」「やや負担である」を合わせると、一般調査では57.2%、認定者調査では43.4%となっている。また、「妥当な額である」「負担には感じない」を合わせると、一般調査では21.6%、認定者調査では28.1%となっている。

今後希望する暮らし方は、一般調査、認定者調査ともに「主に介護サービスを利用して自宅で暮らしたい」が最も多く、一般調査では39.5%、認定者調査では44.1%となっている。認定者調査では、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」の21.2%を合わせると、「自宅」での介護を希望する人が65.3%となっている。

(3) コミュニケーションについて

利用している通信機器について、「スマートフォン」が一般調査では62.8%、ニーズ調査では61.5%と、一般調査、ニーズ調査ともに最も多くなっており、次いで「携帯電話(ガラケー)・固定電話」が一般調査では42.3%、ニーズ調査では37.1%、「パソコン・タブレット」が一般調査では22.3%、ニーズ調査では27.1%の順となっている。一方で、「どれも使っていない」は一般調査では3.2%、ニーズ調査では4.3%となっている。

(4) 地域とのかかわり・地域住民によるサービス

一般調査では、地域で支援を必要とする高齢者の支え手として「すでに活動している」「(活動したいと)思う」を合わせると23.6%となっている。一方、「わからない」「思わない」を合わせると72.0%となっている。さらに、高齢者の支え手としてできることは、「話し相手」「見守り」「買い物」といった支援が上位となっている。

認定者調査では、地域住民による生活支援のサービスを「利用したい」が25.9%で、利用したいものは、「買い物」「部屋の掃除、風呂掃除」「通院の付添・介助」が上位となっている。

(5) 認知症と成年後見制度

認知症になった(かもしれない)ときの家族以外への相談意向は、「相談したい」が一般調査では68.6%、認定者調査では62.5%となっており、相談先としては、「かかりつけ医、近所の医院」が最も多くなっている。

認知症に「関心がある」は、一般調査では81.8%、認定者調査では77.9%となっており、そのうち関心があることは、「予防に効果的な方法」が最も多くなっている。

成年後見制度の認知度は、「名前も内容も知っている」が、一般調査では30.8%、認定者調査では23.7%で、利用意向については、「利用したい」が一般調査では24.2%、認定者調査では21.1%となっている。

(6) 生きがいについて

「生きがい」を感じていることは、一般調査では「テレビやラジオの視聴」が46.8%で最も多く、次いで「食事をする事」「旅行や買い物などの外出」の順となっている。ニーズ調査では「テレビやラジオの視聴」が53.0%で最も多く、次いで「食事をする事」「旅行や買い物などの外出」の順となっている。

(7) 区の高齢者福祉施策

区に力を入れてもらいたい高齢者福祉施策は、一般調査、認定者調査ともに、「相談しやすい窓口の充実や情報提供」「介護している家族の負担の軽減」「在宅での生活を支える介護サービスの充実」が上位となっている。

2 その他のテーマ別にみた調査結果

その他、一般調査、ニーズ調査、認定者調査の各調査において、主要な結果を抜粋し、テーマ別にまとめた。

(1) 健康状態

健康状態について、一般調査では、「よい」「まあよい」「ふつう」を合わせると84.5%、ニーズ調査では、「とてもよい」「まあよい」を合わせると73.2%となっている。

どの程度幸せかを聞いた幸福感（10点満点）については、一般調査では、「8～10点」が49.6%、ニーズ調査では「8～10点」が43.8%となっている。

(2) 社会参加と地域活動

一般調査では、高齢者の支え手としての活動意向は、「(活動してみたいと) 思わない」が44.8%、「(活動してみたいと) 思う」が17.5%となっている。この1年間で地域活動等に「参加した」が35.5%で、活動内容は、「町会・自治会、シニア（老人）クラブなどの活動」「健康づくり・スポーツ活動」が上位となっている。

ニーズ調査では、地域での活動で参加している会・グループ等のそれぞれの参加率は、「収入のある仕事」が29.0%、「趣味関係のグループ」が20.6%、「スポーツ関係のグループやクラブ」が18.7%となっている。地域活動への参加者としての参加意向は、「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせると51.4%となっており、企画・運営（世話役）としての参加意向は、「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせると32.4%となっている。

(3) 就労状況

一般調査では、「仕事をしている」が41.8%となっており、年齢別では、「仕事をしている」が『65～69歳』は60.3%、『70～74歳』は51.9%となっている。また、今後の就労意向は、「自営業」「正規の職員・従業員」「会社等の役員」「契約・派遣・臨時・パート」「シルバー人材センターを通じた仕事」「その他」を合わせた就業意向がある割合は45.3%で、年齢別にみると、高齢になるにつれて仕事をしたい割合は少なくなる傾向にあるが、『85歳以上』でも仕事をしたい割合は28.2%となっている。

(4) 生活状況

一般調査では、ふだんの食事の用意は「自分が調理」が54.9%となっている。家族・親族・知人等との会話は「ほぼ毎日」が全体では76.9%となっているが、ひとり暮らしでは46.6%となっている。1週間の外出の頻度は、「ほぼ毎日」が全体で48.7%となっており、65～69歳では58.5%、70～74歳では53.1%となっている。

また、ニーズ調査では、「自分で食品・日用品の買い物をする」は88.2%、「週5回以上外出している」は45.5%となっている。

(5) 日頃の生活で不安に感じる点

一般調査では、日頃の生活で不安に感じる点は、「ご自身や家族の健康や病気のこと」が60.0%で最も多く、次いで「ご自身や家族が寝たきりや身体が不自由になり、介護が必

要な状態になること」「自然災害（台風、地震等）や火災などの緊急事態が発生すること」がともに4割台で続いている。

（6）介護予防

一般調査では、介護が必要にならないために「心がけていることがある」は91.4%で、そのうち「1日3食食べる、栄養バランスに気をつけている」が71.0%と最も多く、次いで「散歩や体操など定期的に身体を動かす」が59.6%、「かかりつけ医に定期的に診てもらおう」が47.0%となっている。

介護予防教室に「参加してみたい」は63.9%で、そのうち参加してみたい教室は「運動機能向上」「膝痛や腰痛の対策・予防」「認知症予防やうつ予防」が上位となっている。

（7）介護保険サービスの利用状況・利用意向

認定者調査では、介護保険サービスの利用状況は、「利用している」が70.0%で、利用している場合のケアプランの満足度は、「満足している」「ほぼ満足している」を合わせると83.6%となっている。希望どおりにサービスが利用できているかどうかについては、「ほぼ希望どおりに利用できている」が78.3%となっている。

また、利用していない場合の理由は「自分で何とか生活できるため」が66.4%、次いで「家族が介護してくれるため」が27.1%となっている。

介護者が望む介護の形態では、「自宅で介護保険サービスと家族等の介護を併用する」が35.1%と最も多く、次いで「自宅で家族や親族が介護する」「特別養護老人ホームなどの介護保険施設を利用する」の順となっている。

介護者が望む支援やサービスでは、「冠婚葬祭・急病時等に預けられる緊急ショートステイ」が30.4%で最も多く、次いで「必要に応じて夜間の利用や宿泊ができるサービスや施設」「介護に関する相談支援の充実」の順となっている。

（8）介護者の状況

認定者調査では、介護してくれる家族の有無は「いる」が64.6%、一方、「家族はいるが、介護してもらっていない」「家族はいない」を合わせると26.1%となっている。主な介護者の年齢は「40～64歳」が33.2%、健康状態は「健康」「持病はあるがおおむね健康」を合わせると73.1%となっている。

就労状況では、仕事が「あり」は42.3%となっている。そのうち、働き方の調整については、「特に行っていない」が39.3%、一方、労働時間、休暇取得、在宅勤務など、何らかの「働き方の調整をしている」は、55.5%となっている。

介護のために「仕事を辞めた」「転職した」人は14.1%、離職した理由は、「仕事と介護の両立が難しいから」が65.9%と最も多くなっている。一方、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」は42.3%となっている。

介護保険サービスの利用による介護者の負担は、「大いに負担が軽くなっている」「多少は負担が軽くなっている」を合わせると51.7%となっている。

II 一般高齢者調査

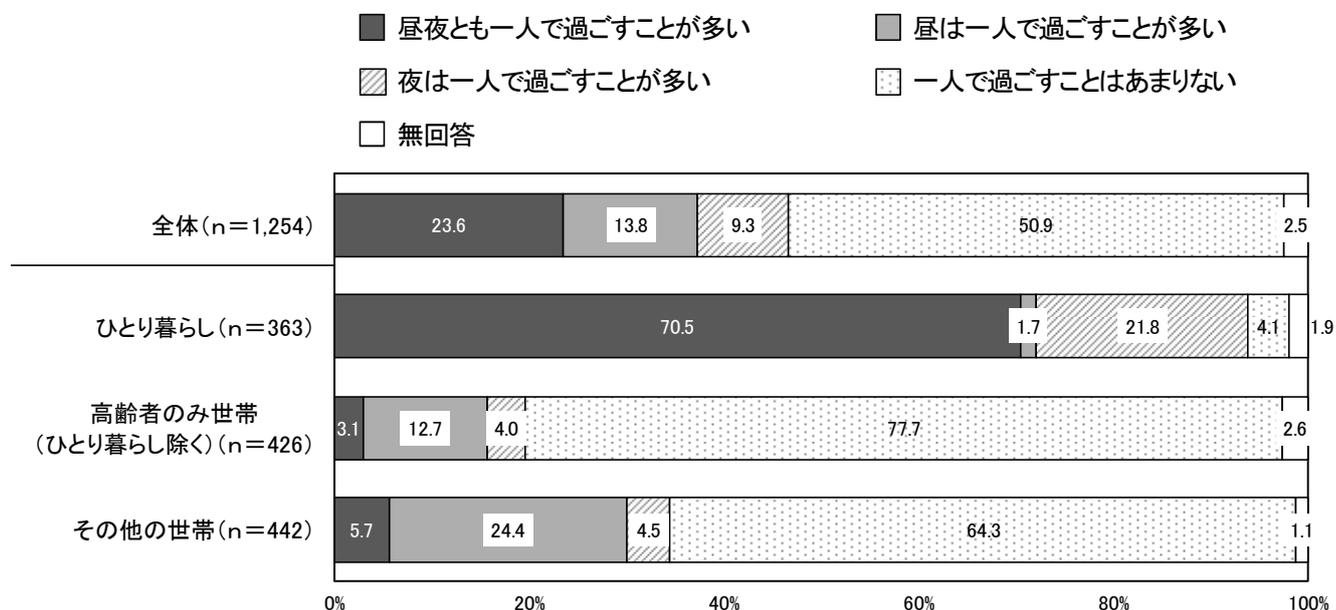
「n」は各設問に該当する回答者の総数（人）であり、回答率（%）の母数をあらわしている。

(1) コミュニケーションについて

日中独居の状況について、全体では「一人で過ごすことはあまりない」が50.9%、家族構成別でみると、ひとり暮らしは「昼夜とも一人で過ごすことが多い」が70.5%

- ・全体では、「一人で過ごすことはあまりない」50.9%が最も多く、次いで「昼夜とも一人で過ごすことが多い」23.6%、「昼は一人で過ごすことが多い」13.8%となっている。
- ・家族構成別でみると、同居者のいる世帯では「一人で過ごすことはあまりない」の割合が半数以上を占めて最も多くなっているのに対し、ひとり暮らしでは「昼夜とも一人で過ごすことが多い」が70.5%となっている。

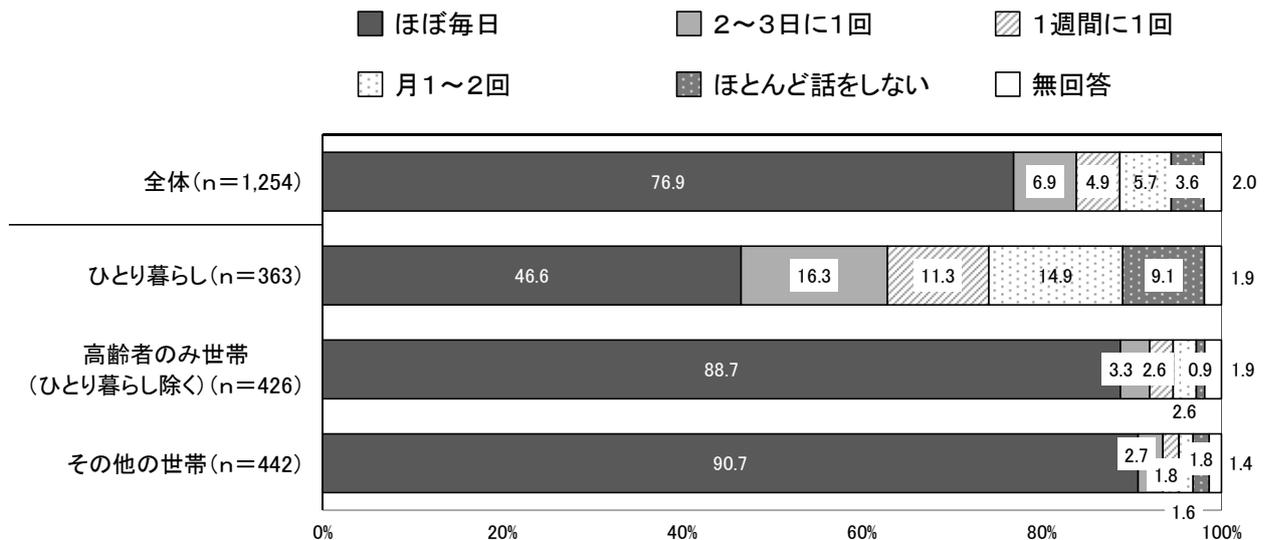
問5 日中独居の状況／家族構成別



家族・親族・知人等との会話の頻度について、全体では「ほぼ毎日」が76.9%、家族構成別でみると、ひとり暮らしは「ほぼ毎日」が46.6%

- ・全体では、「ほぼ毎日」76.9%、「2～3日に1回」6.9%、「月に1～2回」5.7%などの順となっている。
- ・家族構成別でみると、全ての家族構成で「ほぼ毎日」が最も多くなっているものの、ひとり暮らしでは「ほぼ毎日」の割合が、他の家族構成より少ない傾向にある。

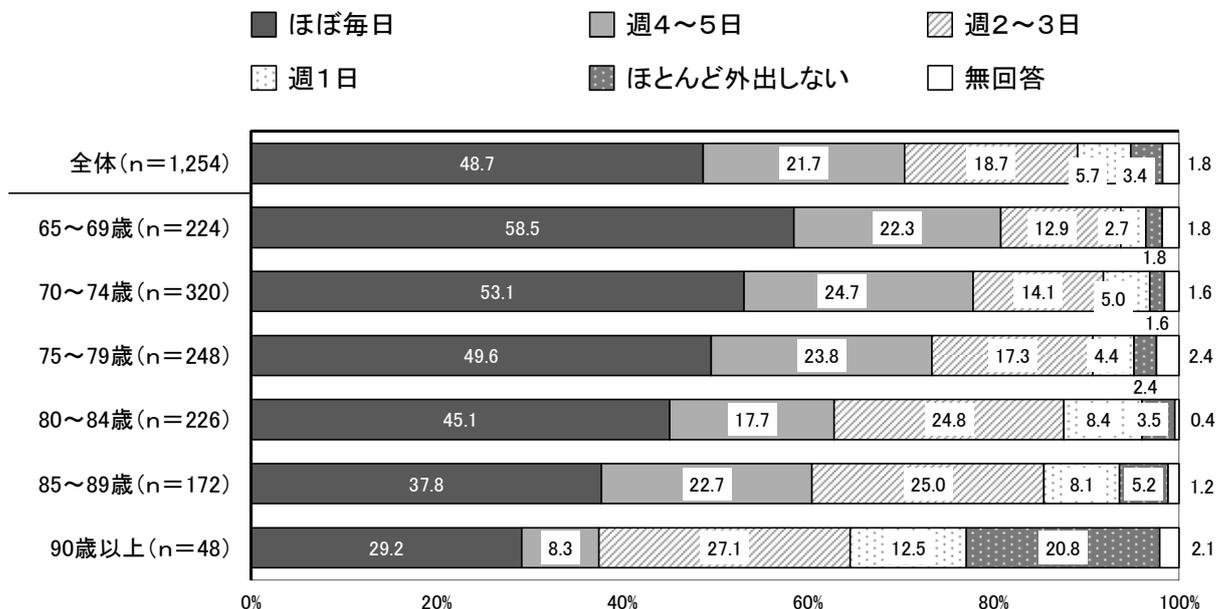
問16 家族・親族・知人等との会話の頻度／家族構成別



外出の頻度について、全体では「ほぼ毎日」が48.7%、年齢別でみると、90歳以上では「ほとんど外出しない」が20.8%

- ・全体では、「ほぼ毎日」48.7%が最も多く、次いで「週4～5日」21.7%、「週2～3日」18.7%となっている。
- ・年齢別でみると、全ての年齢で「ほぼ毎日」が最も多くなっているが、年齢が高くなるにつれ、回答割合は減少傾向にある。

問17 外出の頻度／年齢別



使用している通信機器について、全体では「スマートフォン」が62.8%、年齢別で見ると、年齢が高くなるにつれ「スマートフォン」の割合が減少傾向

- ・全体では、「スマートフォン」が62.8%、「携帯電話（ガラケー）・固定電話」が42.3%、「パソコン・タブレット」が22.3%などとなっており、「どれも使っていない」は3.2%に止まる。
- ・年齢別で見ると、84歳以下では「スマートフォン」、85歳以上では「携帯電話（ガラケー）・固定電話」が最も多くなっている。

問18 使用している通信機器／年齢別（複数回答）

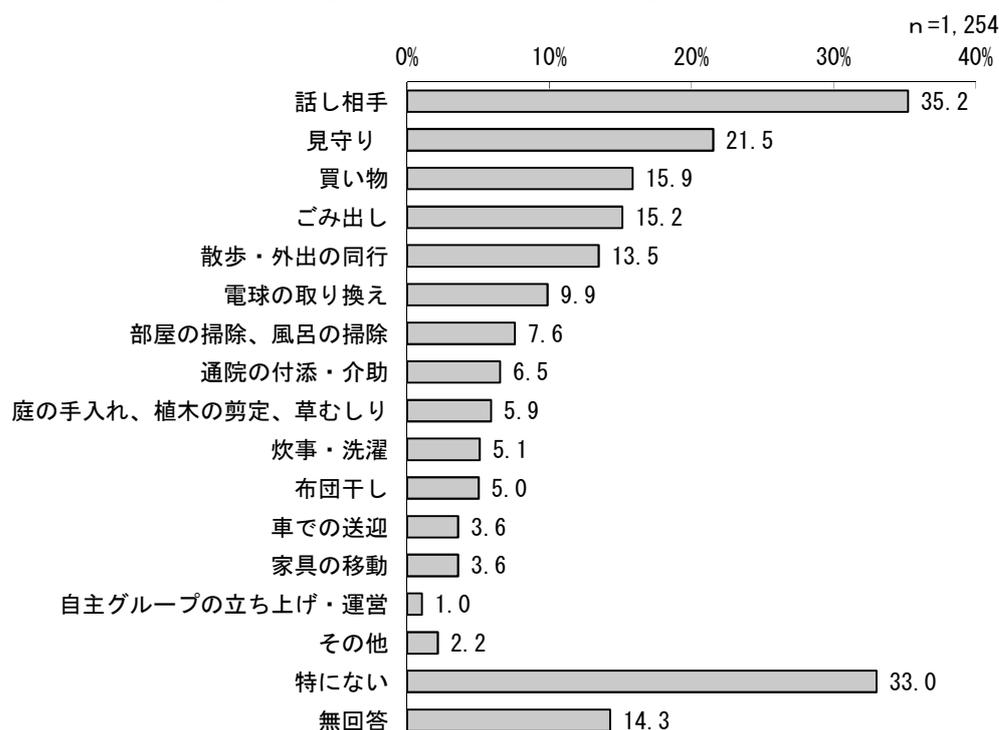
単位：%

		回答者数（人）	スマートフォン	パソコン・タブレット	携帯電話（ガラケー）・固定電話	どれも使っていない	無回答
全体		1254	62.8	22.3	42.3	3.2	4.0
年齢	65～69歳	224	83.0	40.6	27.7	1.8	3.6
	70～74歳	320	74.1	29.7	34.4	1.6	3.1
	75～79歳	248	68.5	18.5	38.7	0.0	4.8
	80～84歳	226	51.8	15.5	50.4	4.0	3.1
	85～89歳	172	38.4	7.0	65.1	6.4	3.5
	90歳以上	48	12.5	0.0	64.6	20.8	6.3

(2) 地域とのかかわり、社会参加について

地域で支援を必要とする高齢者の支え手としてできることについて、「話し相手」が35.2%、「見守り」が21.5%

問20 地域で支援を必要とする高齢者の支え手としてできること（複数回答）



(3) 生きがいについて

生きがいを感じていることについて、全体では「テレビやラジオの視聴」が46.8%、年齢別でみると、前期高齢者では「働くこと（自営・家事などを含む）」が45.0%、後期高齢者では「テレビやラジオを視聴すること」が51.6%

- ・全体では、「テレビやラジオの視聴」46.8%が最も多く、次いで「食事をする事」42.3%、「旅行や買い物などの外出」40.7%となっている。
- ・年齢別でみると、65～69歳では「働くこと（自営・家事などを含む）」、70～74歳では「旅行や買い物などの外出」、75歳以上では「テレビやラジオの視聴」が各々最も多くなっている。

問22 生きがいを感じていること／年齢別（複数回答）

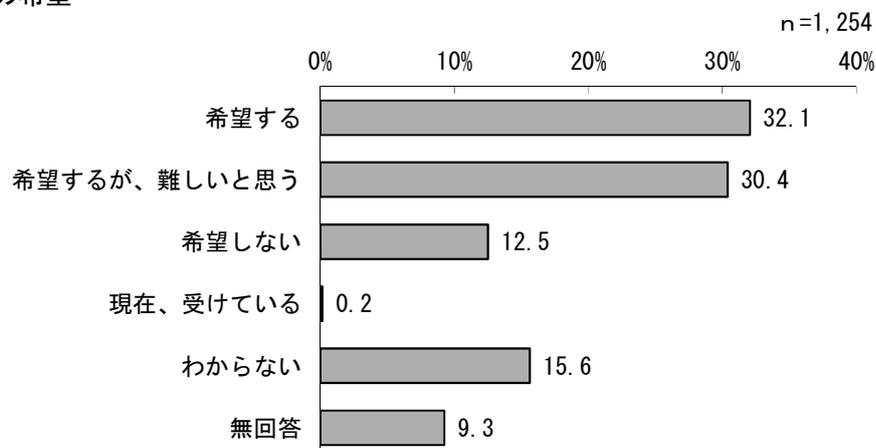
単位：%

	回答者数（人）	働くこと（自営・家事などを含む）	家族の世話や介護	ご近所や友達とのつきあい	スポーツ・レクリエーション	学習や教養を高めること・趣味の活動	町会・自治会の活動	シニア（老人）クラブの活動	ボランティア活動	おしゃれや服装のこと	家族との団らん	テレビやラジオの視聴	旅行や買い物などの外出	食事をする事	その他	無回答	
		全体	1254	37.4	10.4	30.9	17.8	23.5	9.4	4.0	4.7	19.7	32.1	46.8	40.7	42.3	5.4
年齢	65～69歳	224	46.4	12.5	28.1	21.0	33.0	8.9	0.9	4.0	21.4	36.2	37.1	41.1	42.4	4.0	4.0
	70～74歳	320	44.1	13.8	31.6	21.3	25.3	10.9	2.5	6.9	23.4	34.7	44.4	46.9	45.6	5.6	5.6
	75～79歳	248	34.3	7.3	32.3	17.3	23.8	7.3	3.2	4.8	18.5	29.4	48.8	44.8	40.7	4.8	5.6
	80～84歳	226	31.4	10.6	36.7	18.1	19.9	11.9	7.5	5.3	20.4	31.4	54.4	37.6	41.2	6.6	6.6
	85～89歳	172	30.8	7.6	27.9	11.0	16.3	9.3	7.6	1.2	13.4	26.2	49.4	32.0	39.0	5.8	9.9
	90歳以上	48	22.9	4.2	18.8	6.3	14.6	2.1	4.2	2.1	14.6	35.4	60.4	31.3	50.0	8.3	12.5

(4) 在宅療養が必要になった際の暮らし方について

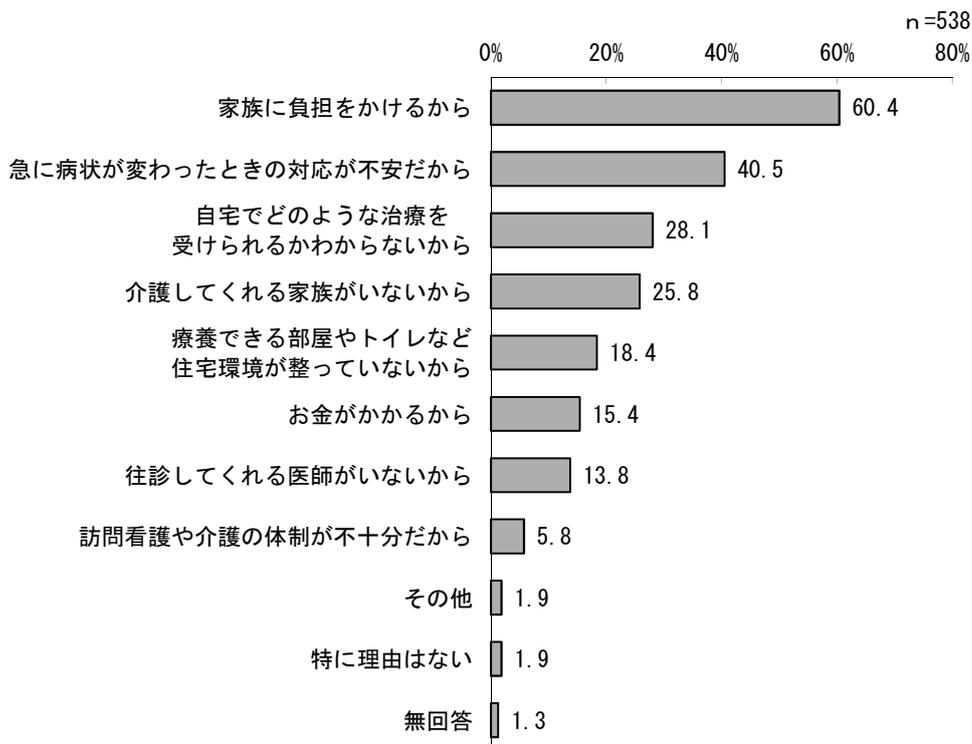
長期の療養が必要になった場合、在宅療養を『希望する』が62.5%

問33 在宅療養の希望



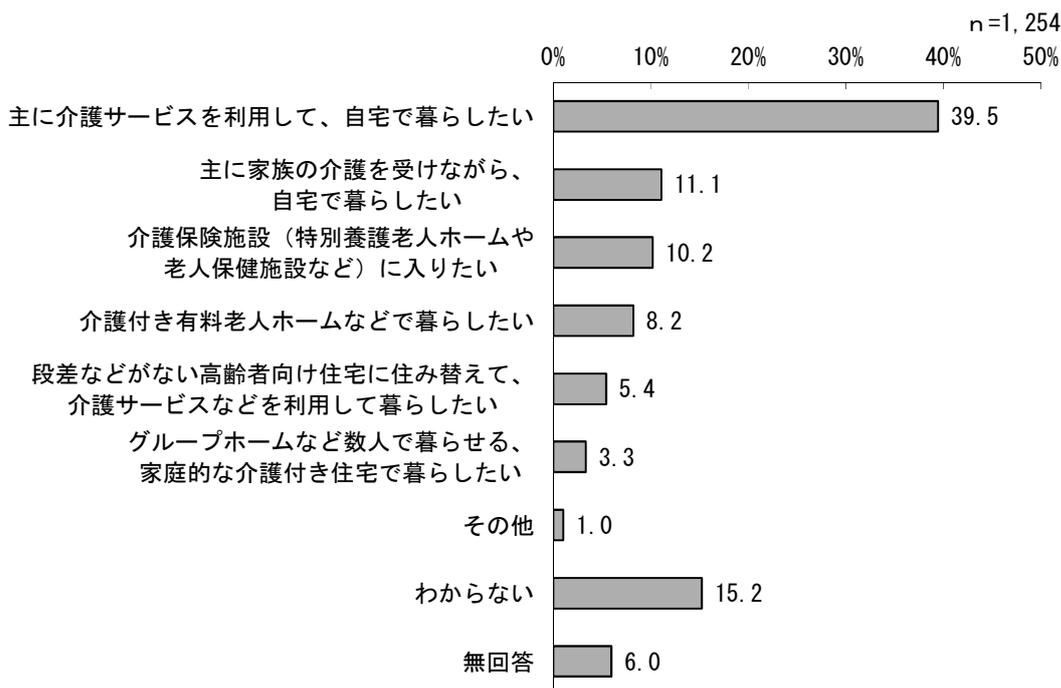
在宅療養を希望するが難しい・希望しない理由について、「家族に負担をかけるから」が60.4%、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が40.5%

問 33-1 在宅療養を希望しない理由（複数回答）



今後、介護が必要になった際の暮らし方の希望について、「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が39.5%

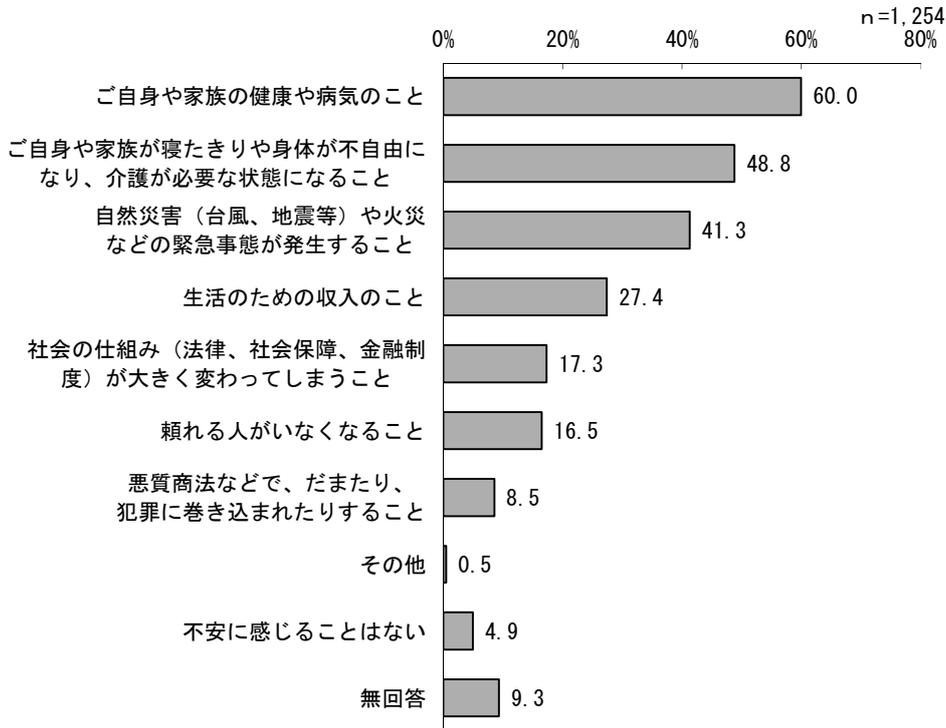
問 38 介護が必要になった際の暮らし方の希望



(5) 相談先について

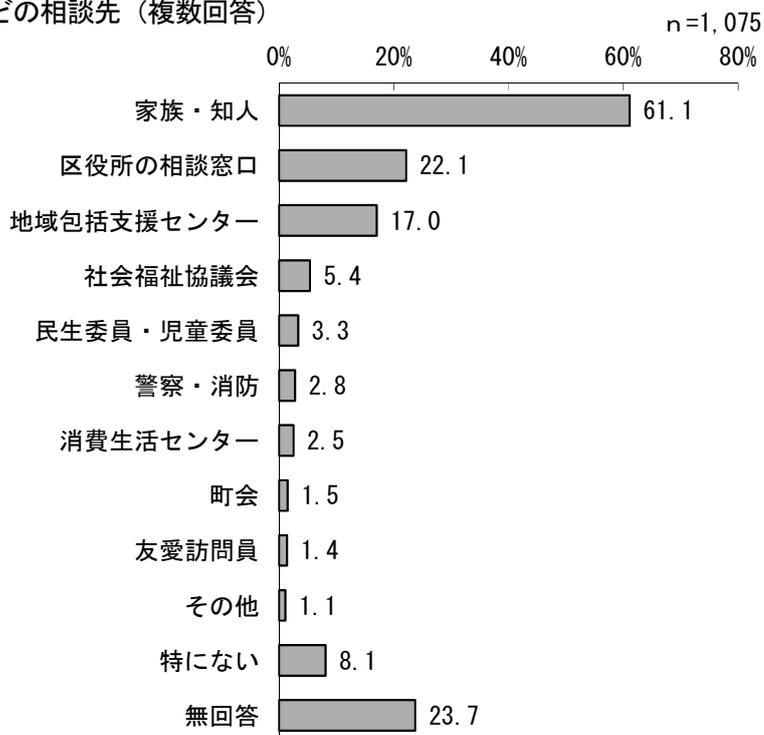
日常生活で不安に感じることについて、「ご自身や家族の健康や病気のこと」が60.0%

問 39 日常生活で不安に感じること（複数回答）



生活の不安などの相談先について、「家族・知人」が61.1%

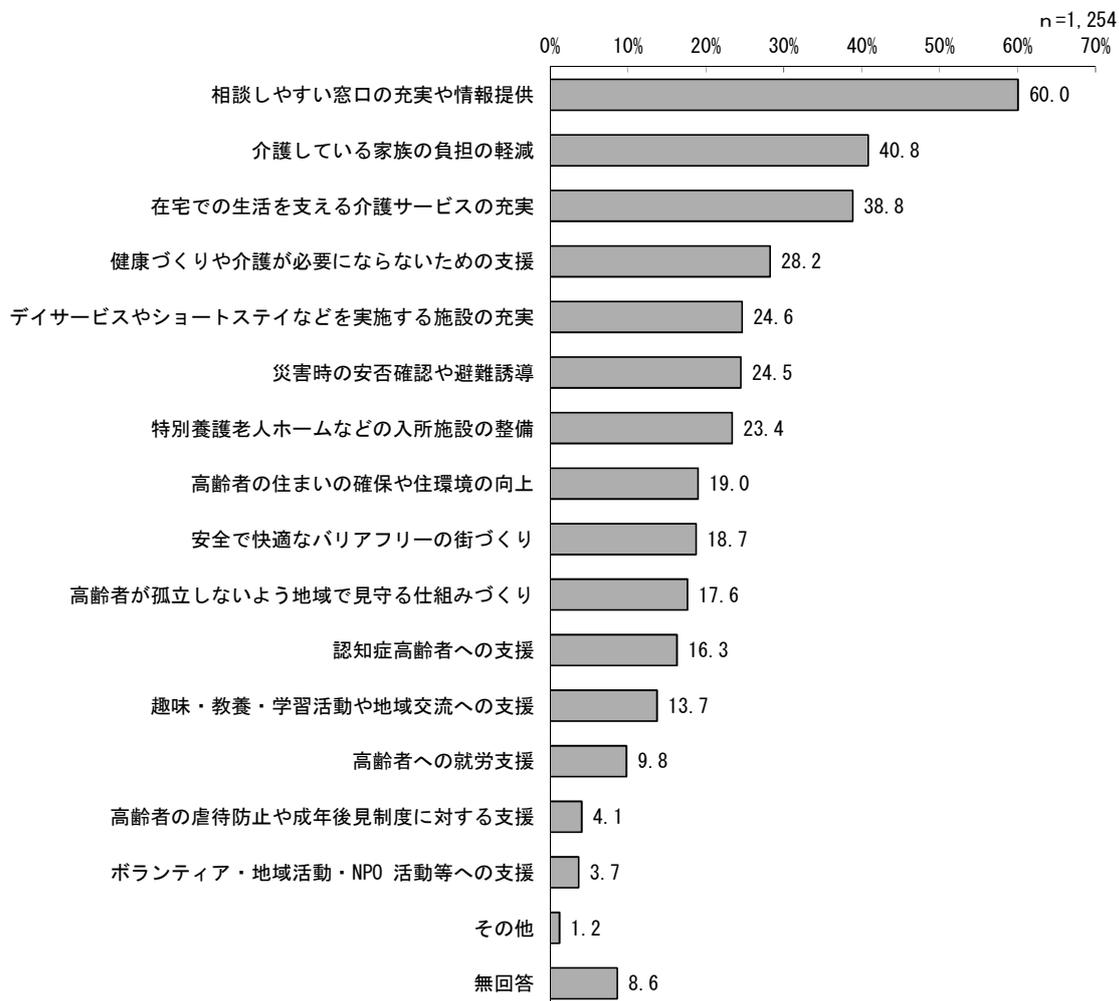
問 39-1 生活の不安などの相談先（複数回答）



(6) 区の高齢者福祉施策について

区に力を入れてほしい高齢者福祉施策について、「相談しやすい窓口の充実や情報提供」が60.0%、「介護している家族の負担軽減」が40.8%

問41 区に力を入れてほしい高齢者福祉施策（複数回答）



III 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

「n」は各設問に該当する回答者の総数（人）であり、回答率（%）の母数をあらわしている。

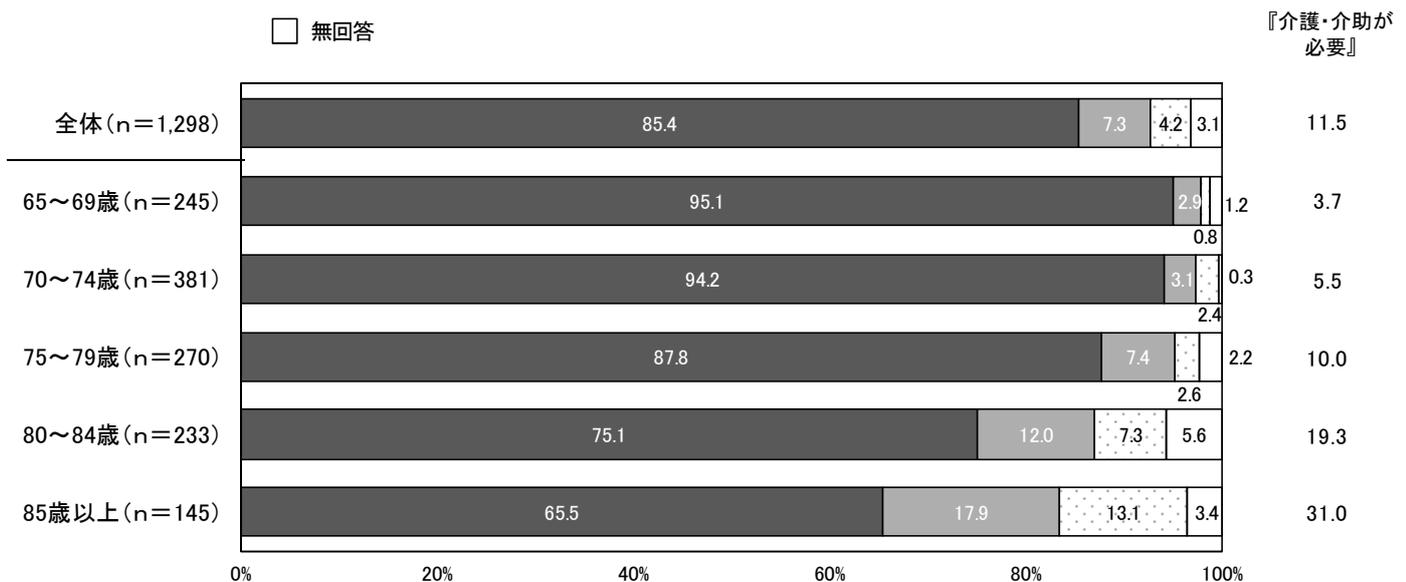
（1）介護・介助の状況

介護・介助の状況について、全体では「介護・介助は必要ない」が 85.4%
年齢別で見ると、年齢が高くなるにつれ『介助が必要』が増加

- ・全体では、「介護・介助は必要ない」が 85.4%に対し、『介護・介助が必要』は 11.5%となっている。
- ・年齢別にみると、全ての年齢で「介護・介助は必要ない」が最も多くなっているが、年齢が高くなるにつれ減少する傾向にある。

問4（2） 介護・介助の状況／年齢別

- 介護・介助は必要ない
- 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）
- 無回答

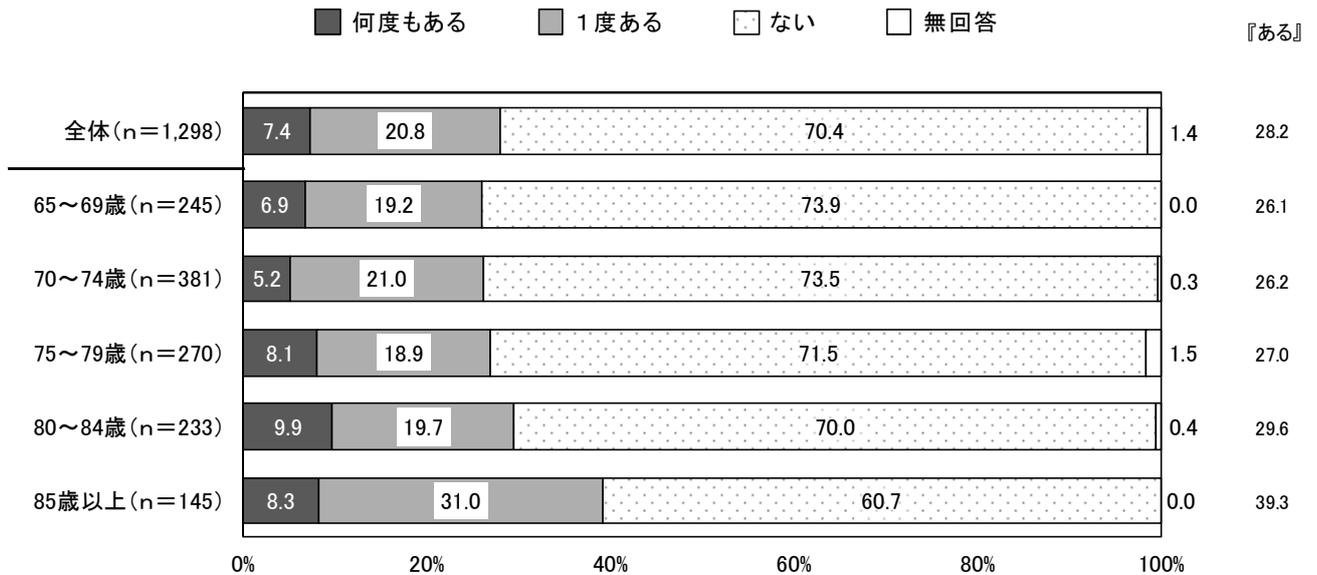


(2) 過去1年間の転倒の経験

過去1年間の転倒の経験について、全体では「ない」が70.4%、『ある』が28.2%
年齢別でみると、85歳以上では『ある』が39.3%

- ・全体では、「ない」70.4%が、『ある』28.2%を42.2%上回っている。
- ・年齢別でみると、85歳以上では『ある』が39.3%となっており、年齢が高くなるにつれ増加する傾向にある。

問5(4) 過去1年間の転倒の経験/年齢別

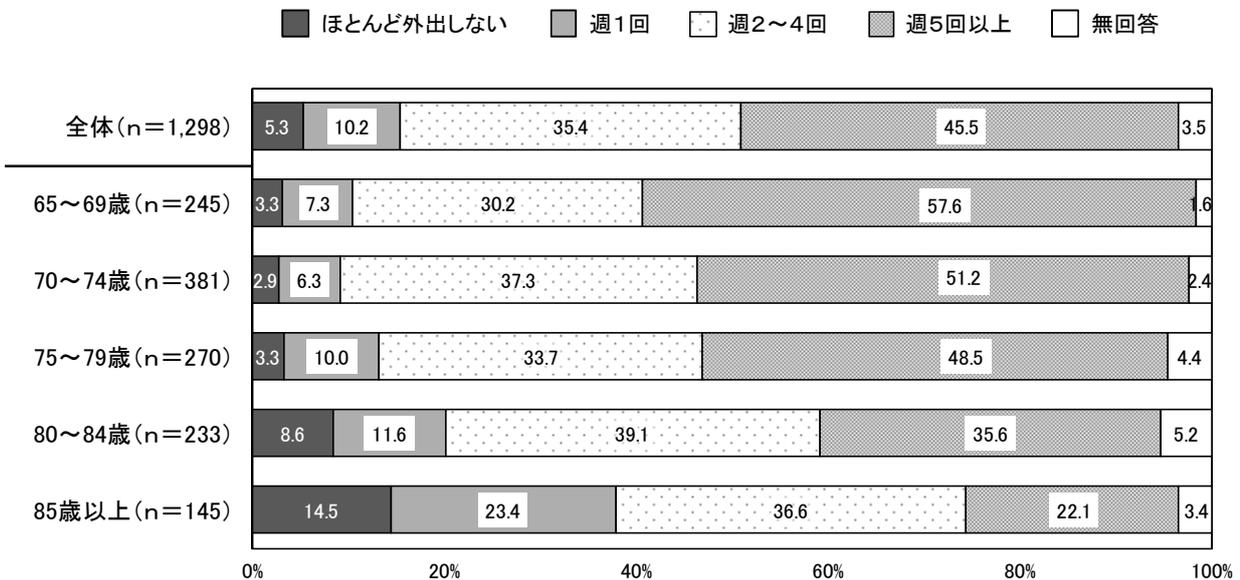


(3) 外出の頻度

外出の頻度について、全体では「週5回以上」が45.5%、「週2~4回」が35.4%
年齢別でみると、74歳以下では「週5回以上」が過半数

- ・全体では、「週5回以上」45.5%が最も多く、次いで「週2~4回」35.4%となっている。一方で、「ほとんど外出しない」は5.3%に止まる。
- ・年齢別でみると、「週5回以上」は年齢が高くなるにつれ減少しており、「週1回」は増加している。

問5(6) 外出の頻度/年齢別

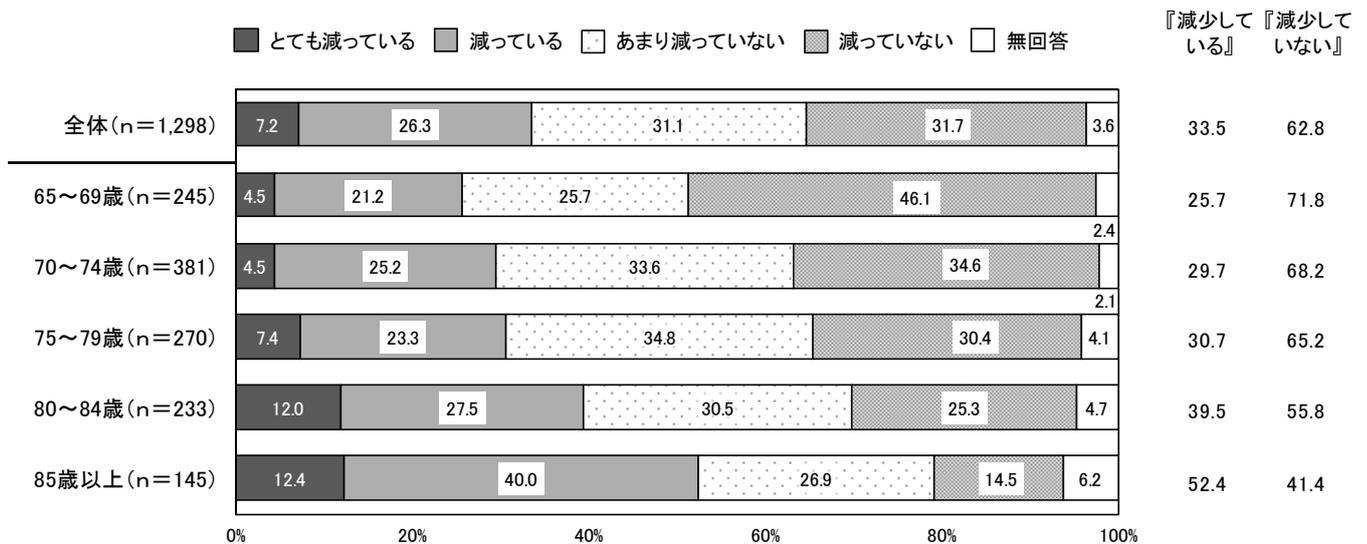


(4) 外出の状況

昨年と比べた外出の回数について、全体では『減少していない』が 62.8%、『減少している』が 33.5%
 年齢別で見ると、85歳以上では『減少している』が『減少していない』を上回る

- ・全体では、『減少していない』62.8%が、『減少している』33.5%を29.3%上回っている。
- ・年齢別で見ると、85歳以上では『減少している』が過半数を占めている。

問5 (7) 外出の状況/年齢別

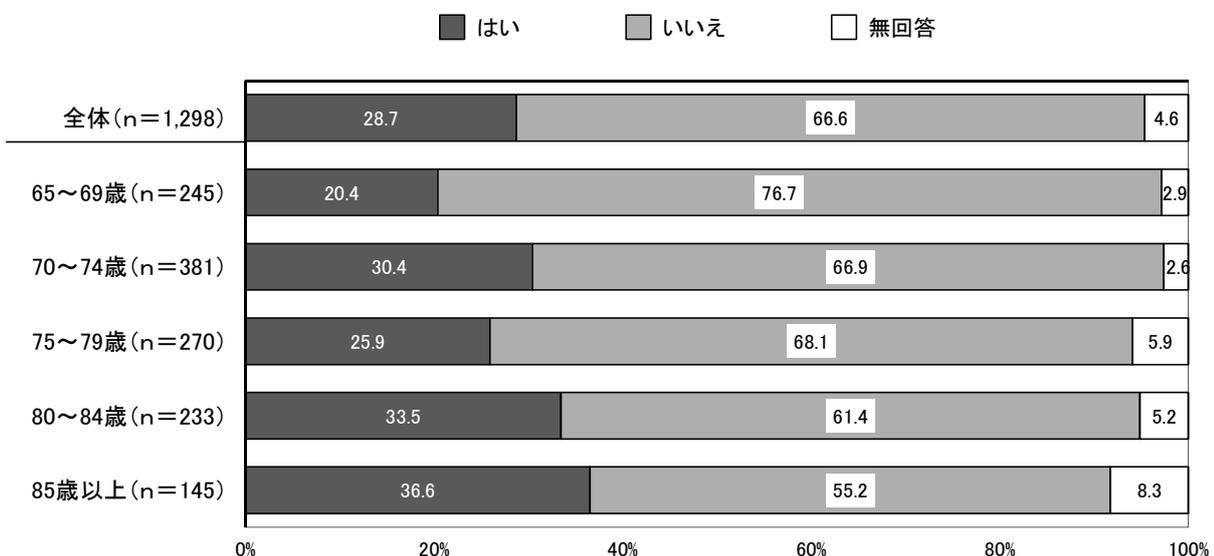


(5) 固いものが食べにくくなったか

半年前と比べ固いものが食べられなくなったかについて、全体では「いいえ」が 66.6%、「はい」が 28.7%
 年齢別で見ると、全ての年齢で「いいえ」が「はい」を上回る

- ・全体では、「いいえ」66.6%が、「はい」28.7%を37.9%上回る。
- ・年齢別で見ると、全ての年齢で「いいえ」が「はい」を上回り、「はい」は2～3割台となっている。

問6 (2) 固いものが食べにくくなったか/年齢別

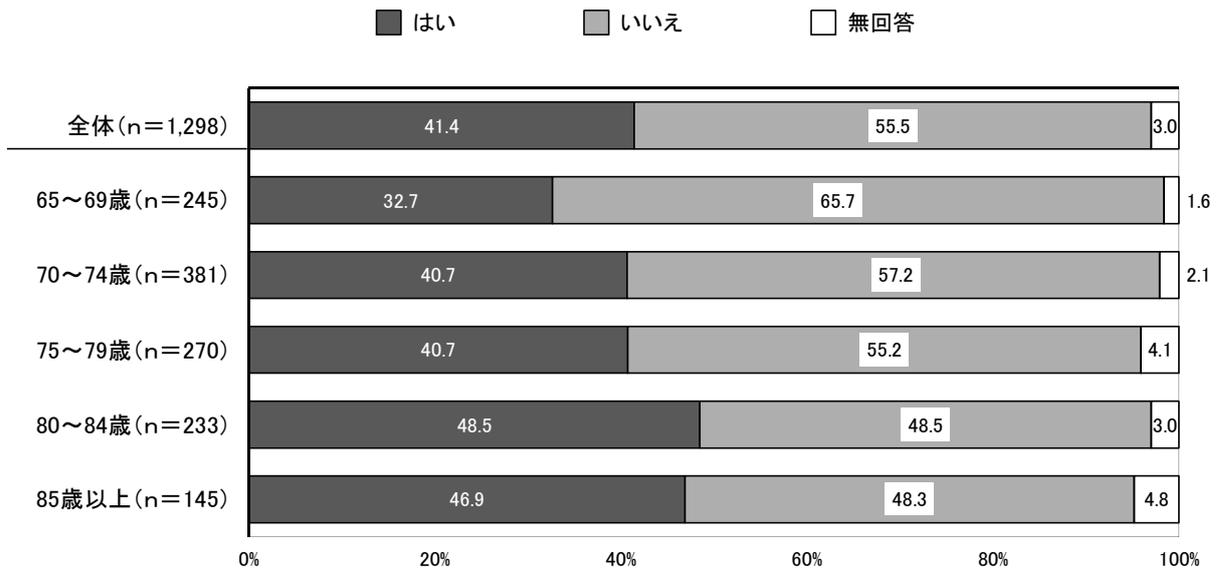


(6) 物忘れが多いと感じるか

物忘れが多いと感じるかについて、全体では「いいえ」が55.5%、「はい」が41.4%
年齢別でみると、70歳以上では「はい」が4割以上

- ・全体では、「いいえ」55.5%が、「はい」41.4%を14.1%上回る。
- ・年齢別でみると、69歳以下では「はい」が32.7%となっており、70歳以上では「はい」が4割以上を占めてやや多くなっている。

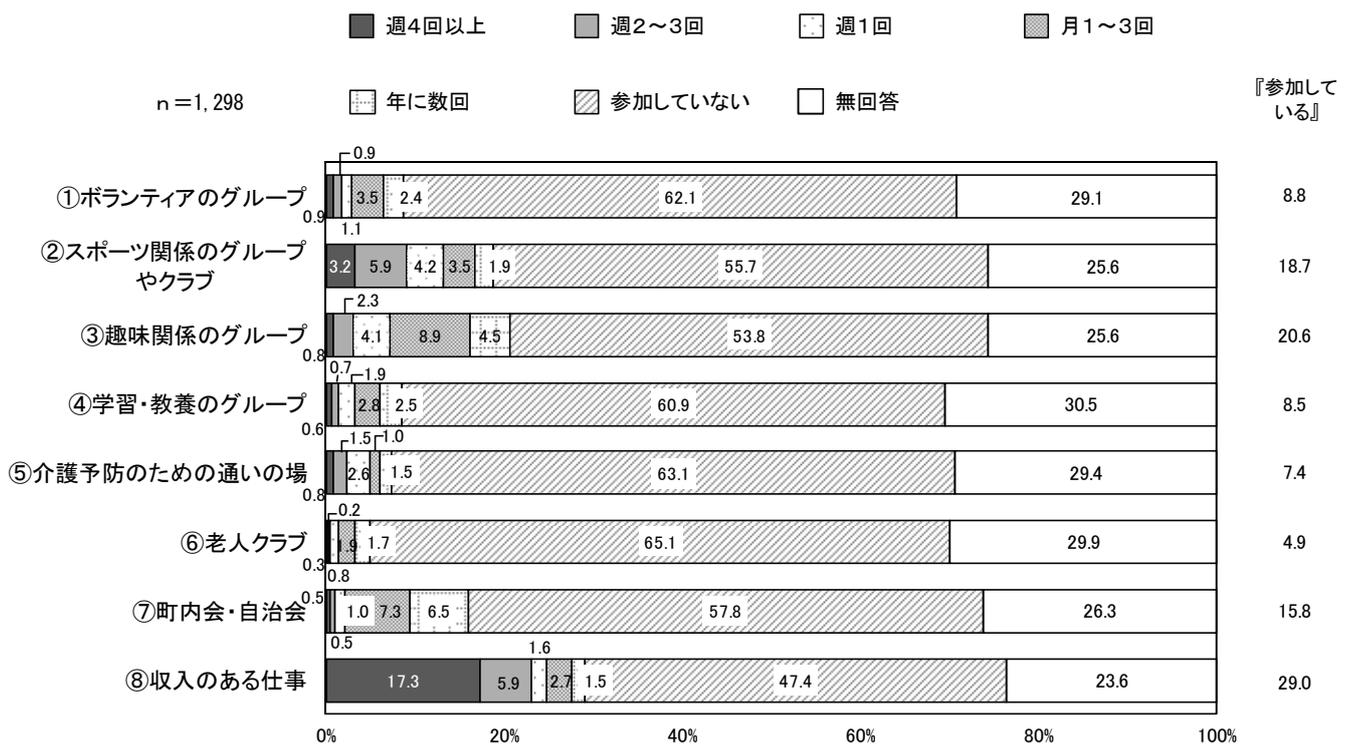
問7 (1) 物忘れが多いと感じるか／年齢別



(7) 会・グループ等への参加頻度

会・グループ等への参加について、「⑧収入のある仕事」が29.0%、「③趣味関係のグループ」が20.6%、「②スポーツ関係のグループやクラブ」が18.7%

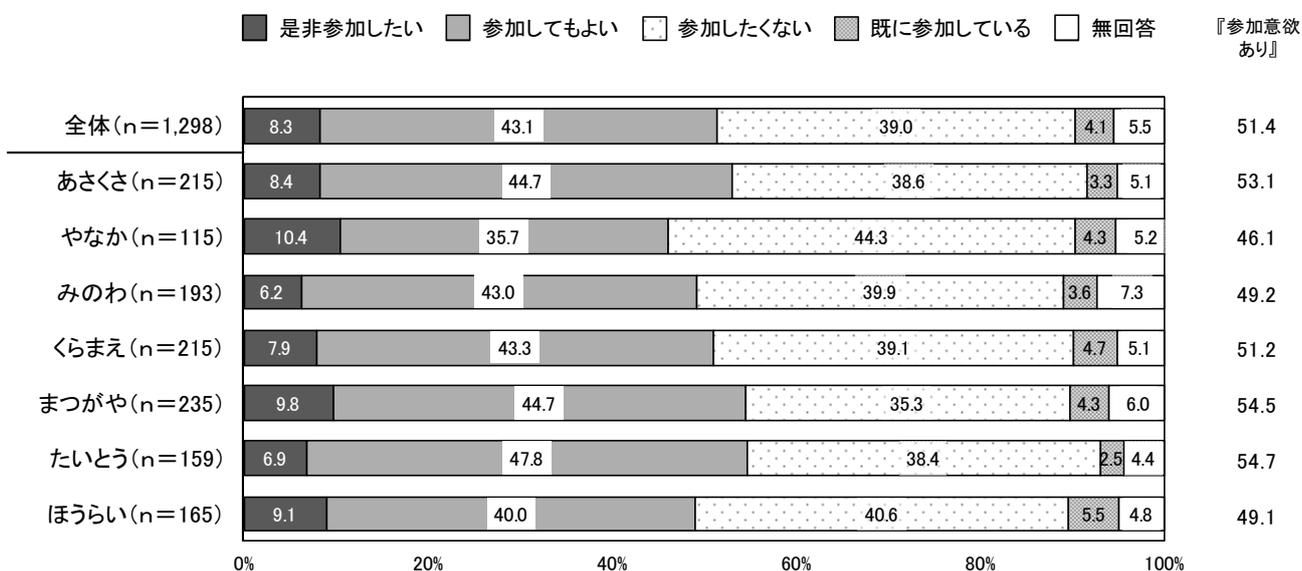
問8 (1) 会・グループ等への参加



(8) 地域活動の参加者としての参加意向

地域活動の参加者としての参加意向について、全ての地域で『参加意欲あり』が4割～5割を占める

問8 (2) 地域活動の参加者としての参加意向／包括別



(9) 通信機器の利用状況

通信機器の利用状況について、全体では「スマートフォン」が61.5%、「携帯電話（ガラケー）・固定電話」が37.1%

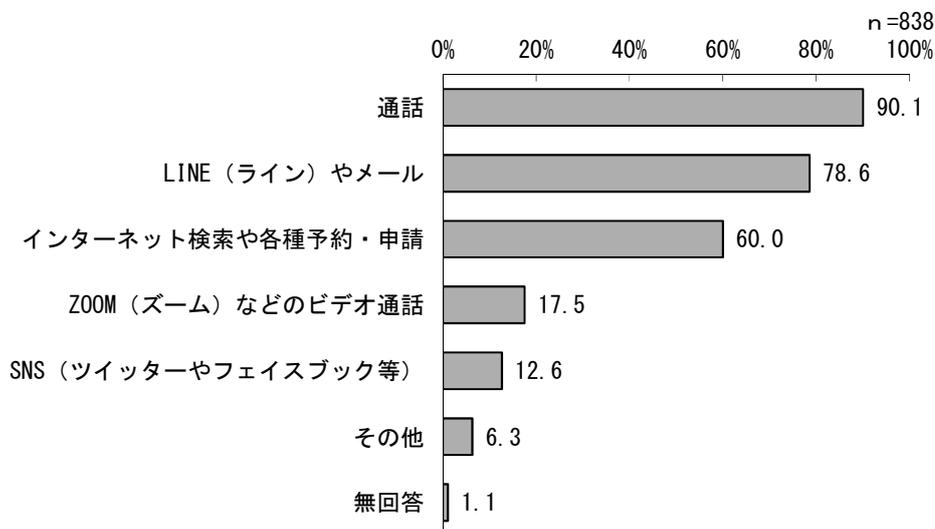
問9 通信機器の利用状況／年齢別（複数回答）

		回答者数 (人)	スマートフォン	タブレット・パソコン	固定電話 (ガラケー)	携帯電話 (ガラケー)	いづれも使っていない	無回答
全体		1298	61.5	27.1	37.1	4.3	6.9	
年齢	65～69歳	245	83.7	48.2	28.6	1.2	2.4	
	70～74歳	381	71.9	30.7	29.9	2.9	5.5	
	75～79歳	270	61.5	21.9	36.3	1.9	8.1	
	80～84歳	233	45.1	15.9	48.9	6.4	7.7	
	85歳以上	145	25.5	12.4	54.5	13.8	11.7	

(10) スマートフォン等の使用方法

スマートフォン等の使用方法について、「通話」が90.1%、「LINE（ライン）やメール」が78.6%、「インターネット検索や各種予約・申請」が60.0%

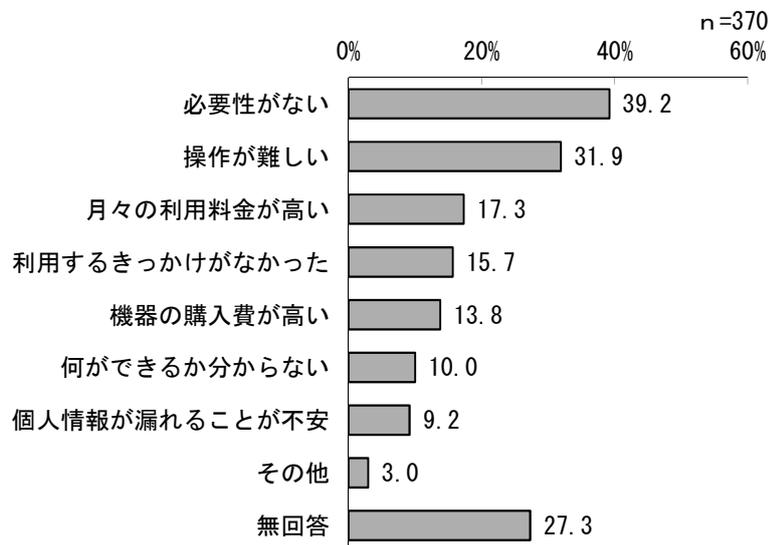
問9-1 スマートフォン等の使用方法（複数回答）



(11) スマートフォン等を利用しない理由

スマートフォン等を利用しない理由について、「必要性がない」が39.2%、「操作が難しい」が31.9%

問9-2 スマートフォン等を利用しない理由（複数回答）

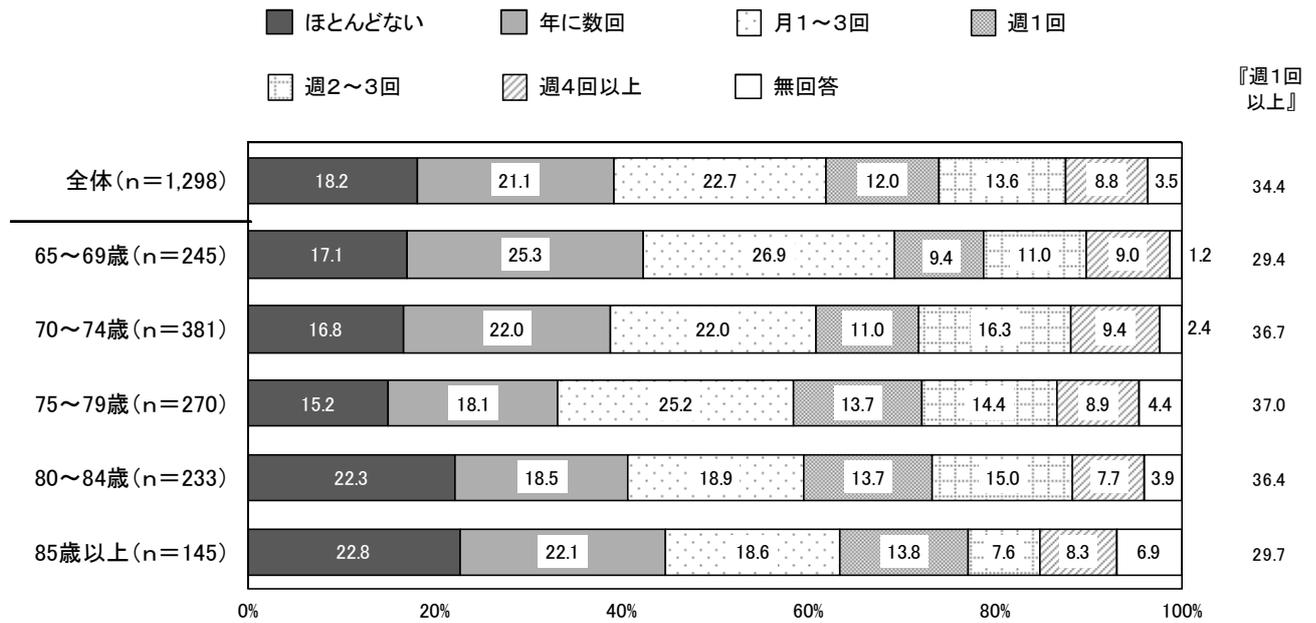


(12) 友人・知人に会う頻度

友人・知人に会う頻度について、全体では「月1～3回」が22.7%、「年に数回」が21.1%
年齢別で見ると、80歳以上では「ほとんどない」が2割以上

- ・全体では、「月1～3回」22.7%が最も多く、次いで「年に数回」が21.1%となっている。
また、『週1回以上』は34.4%となっている。
- ・年齢別で見ると、全ての年齢で『週1回以上』は約3割から3割後半となっている。一方で、「ほとんどない」は1～2割程度となっている。

問10(5) 友人・知人に会う頻度/年齢別



IV 要支援・要介護認定者調査

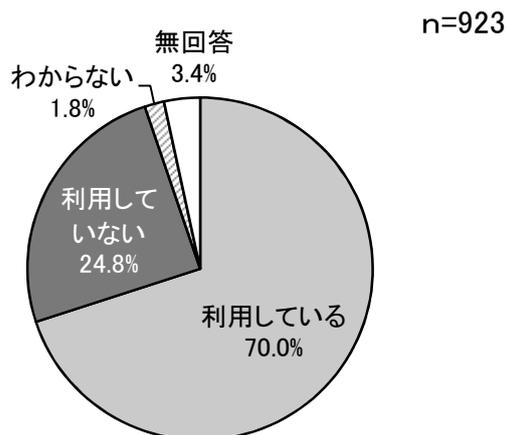
「n」は各設問に該当する回答者の総数（人）であり、回答率（%）の母数をあらわしている。

（1）介護保険制度について

介護保険サービスの利用状況について、「利用している」が70.0%

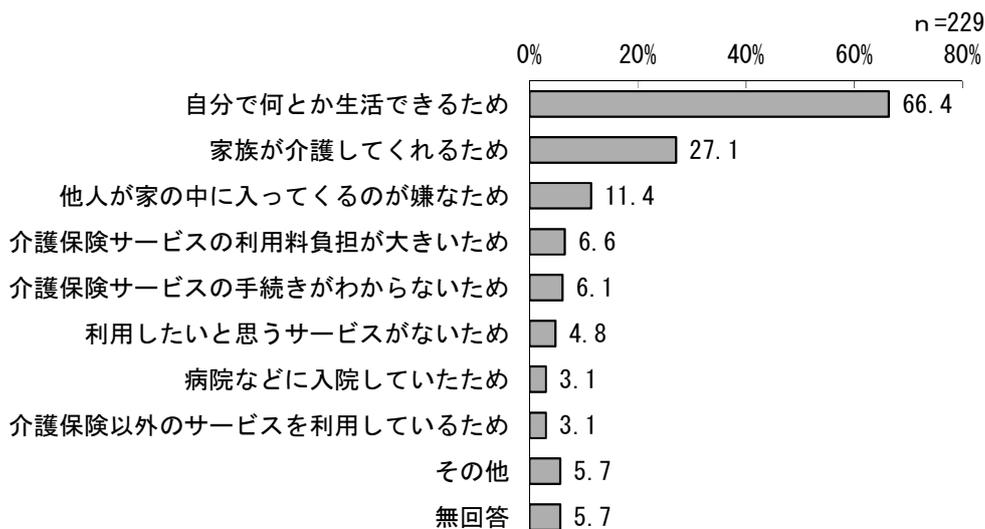
・全体では、「利用している」70.0%が「利用していない」24.8%を45.2%上回る。

問28 介護保険サービスの利用状況



介護保険サービスを利用していない理由について、「自分で何とか生活できるため」が66.4%、「家族が介護してくれるため」が27.1%

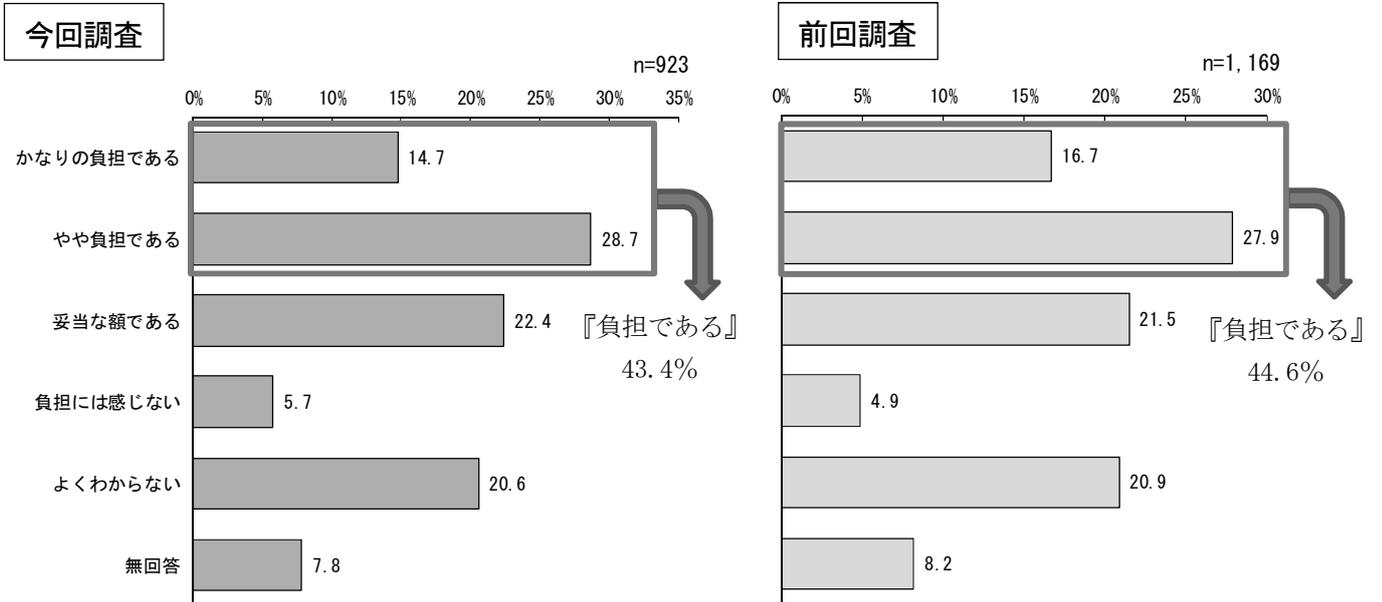
問28-6 介護保険サービスを利用していない理由（複数回答）



介護保険料の額について、『負担である』が43.4%

- ・全体では、『負担である』43.4%が、『負担ではない』28.1%を15.3%上回る。
- ・経年で比較すると、『負担である』が前回調査より1.2ポイント減少している。

問30 介護保険料の額

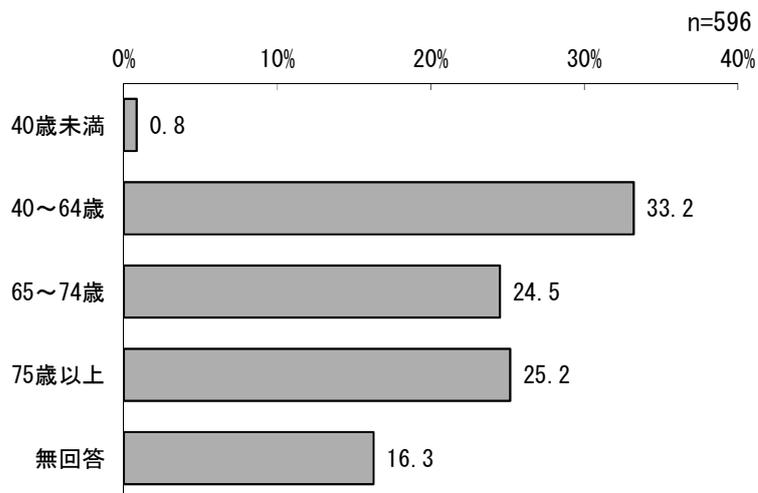


(2) 主な介護者の状況について

主な介護者の年齢について、64歳以下が34.0%、65歳以上が49.7%

- ・全体では、「40～64歳」33.2%が最も多く、次いで「75歳以上」25.2%、「65～74歳」24.5%、の順となっており、「40歳未満」は0.8%に止まる。

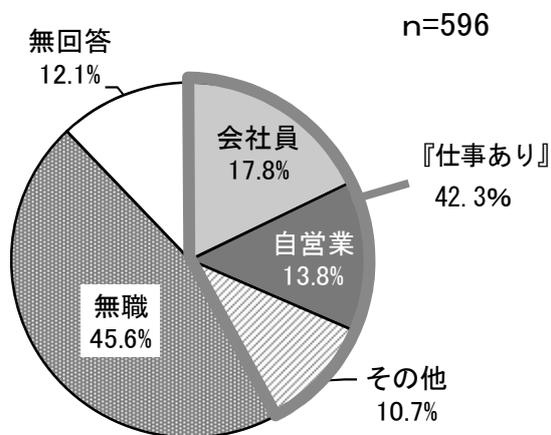
問36③ 主な介護者の年齢



主な介護者の就労状況について、「無職」が45.6%、『仕事あり』が42.3%

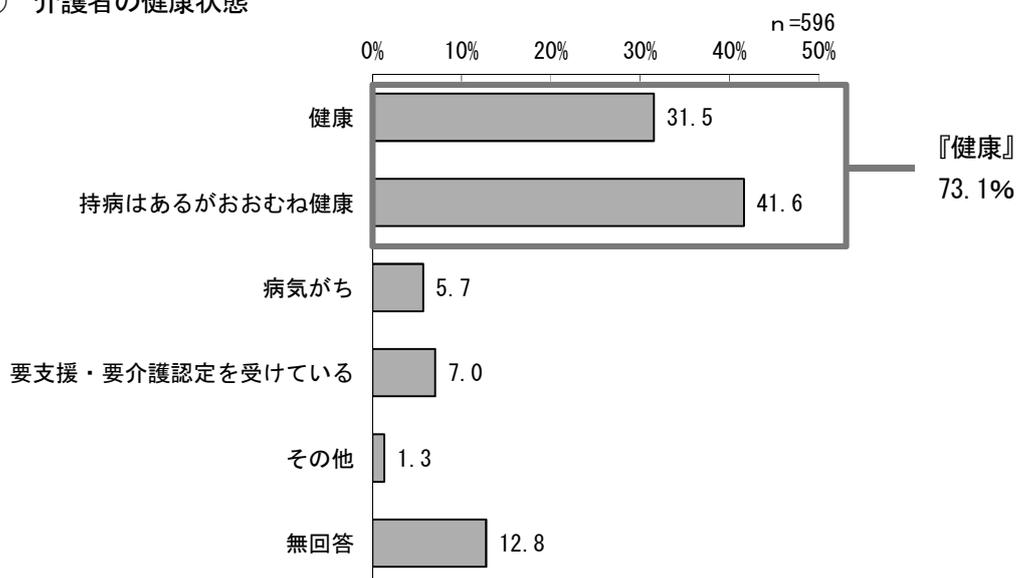
・全体では、「無職」が45.6%に対し、『仕事あり』が42.3%となっている。

問 36④ 主な介護者の就労状況



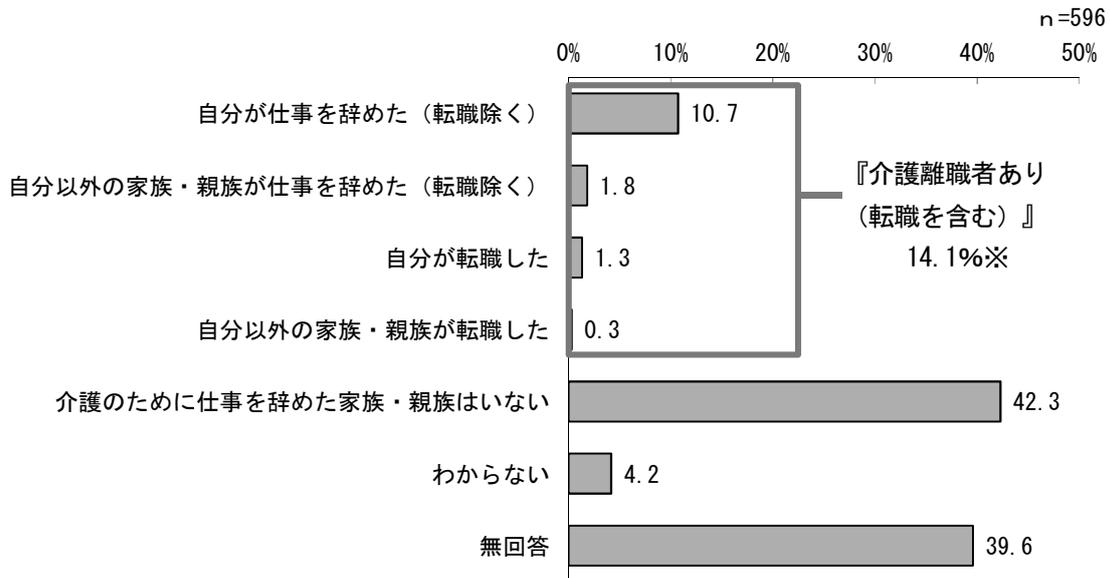
主な介護者の健康状態について、『健康』が73.1%

問 36⑧ 介護者の健康状態



介護離職者の有無について、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が42.3%

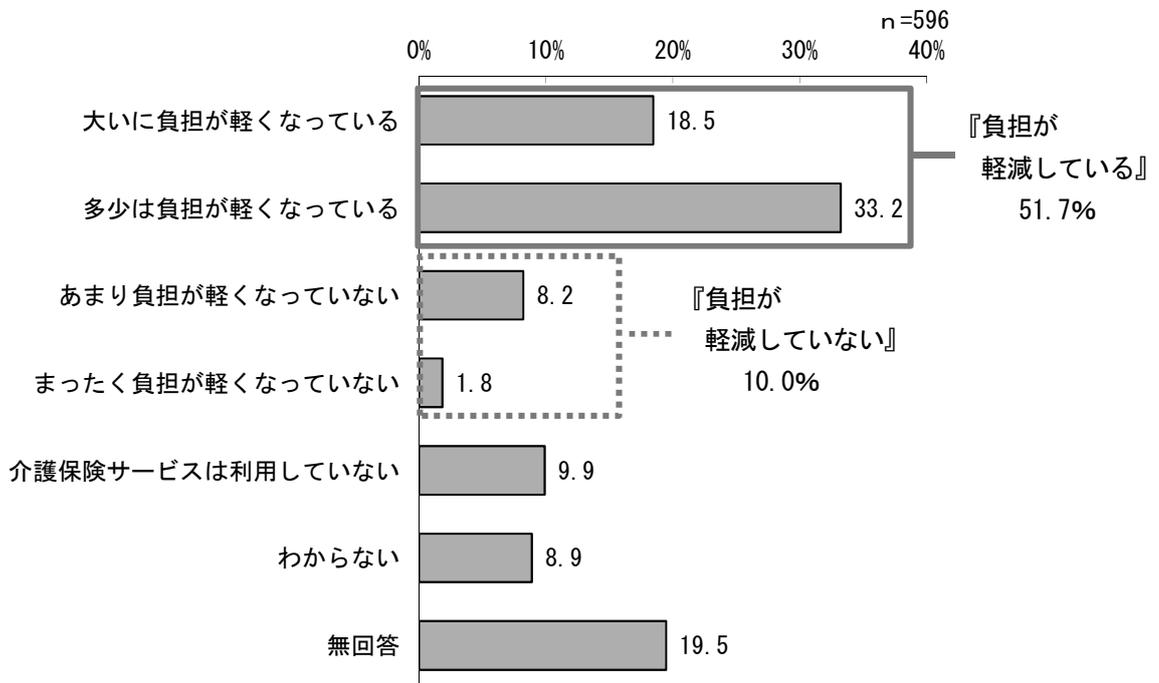
問37 介護離職者の有無（複数回答）



※4項目のうち、1つでも選択した人の割合

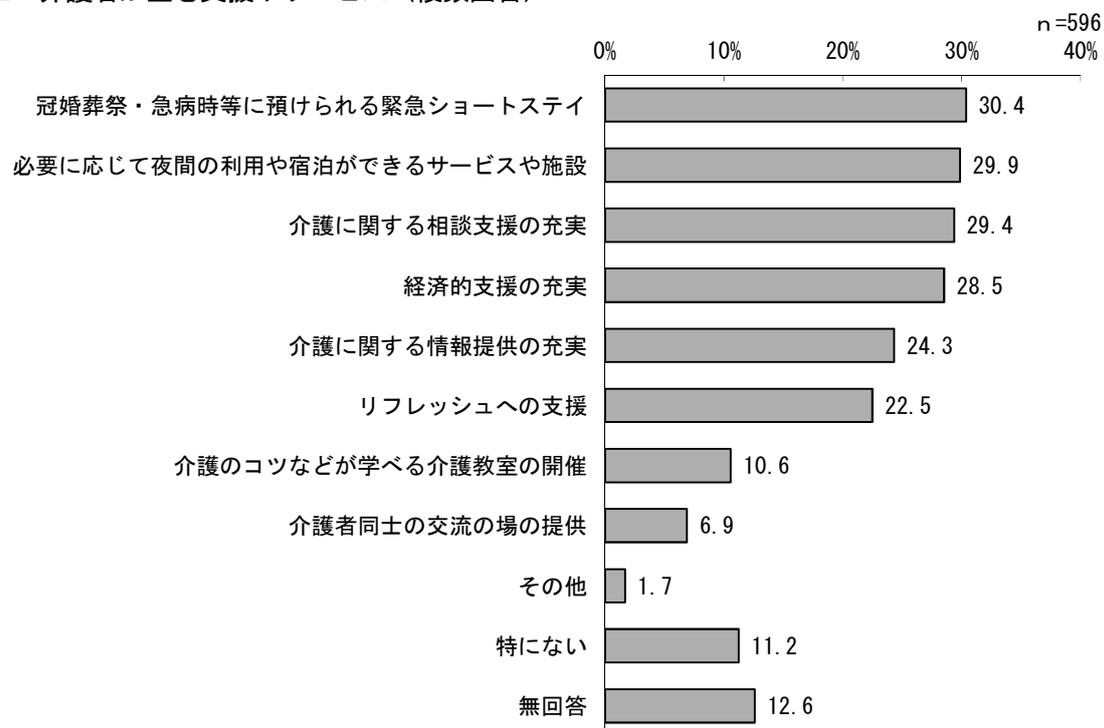
介護保険サービスによる介護者の負担の軽減について、『負担が軽減している』が51.7%

問38 介護保険サービスによる負担の軽減



介護者が望む支援やサービスについて、「冠婚葬祭・急病時等に預けられる緊急ショートステイ」が30.4%、「必要に応じて夜間の利用や宿泊ができるサービスや施設」が29.9%、「介護に関する相談支援の充実」が29.4%

問42 介護者が望む支援やサービス（複数回答）



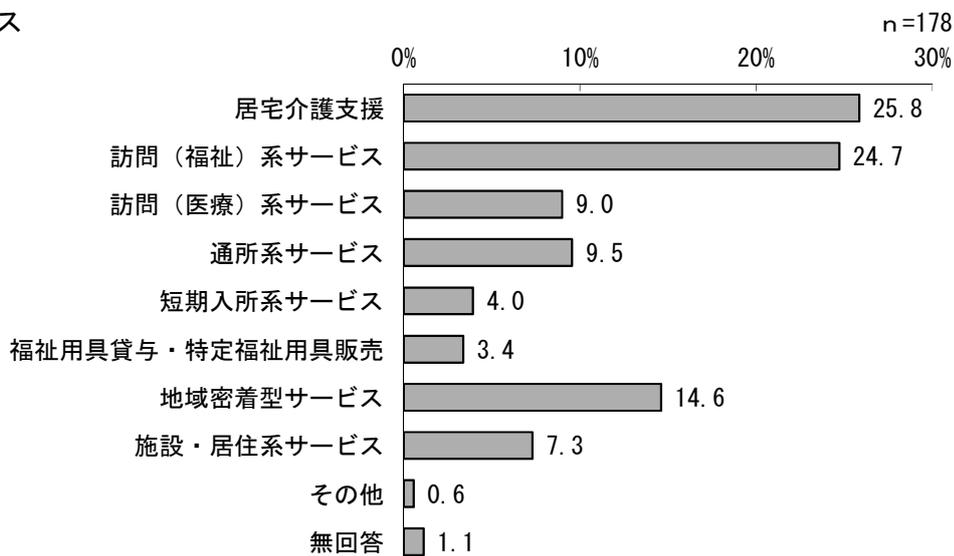
V 介護サービス事業者調査

「n」は各設問に該当する回答者の総数（事業所）であり、回答率（%）の母数をあらわしている。

(1) 提供サービス

提供サービスについて、「居宅介護支援」が25.8%、「訪問（福祉）系サービス」が24.7%、「地域密着型サービス」が14.6%

① 提供サービス

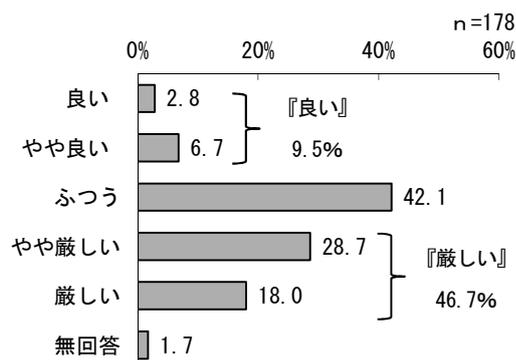


(2) 経営状況と厳しい要因

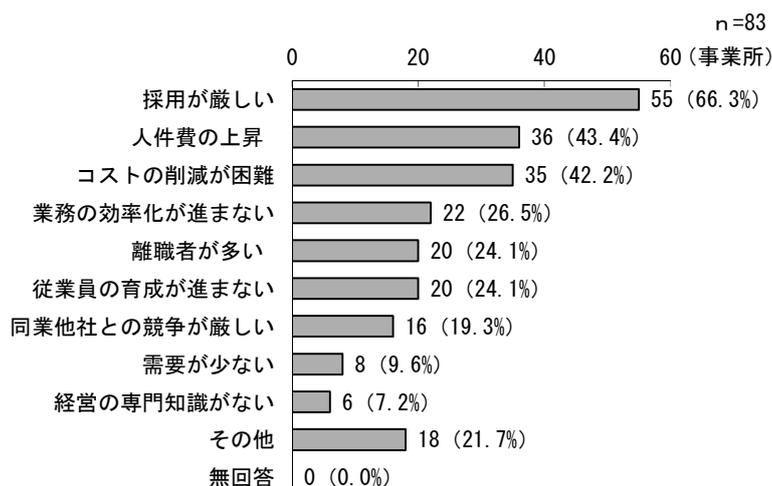
経営状況について、『厳しい』が46.7%、『良い』が9.5%

厳しい要因について、「採用が厳しい」が55事業所（66.3%）、「人件費の上昇」が36事業所（43.4%）、「コストの削減が困難」35事業所（42.2%）

問2 経営状況



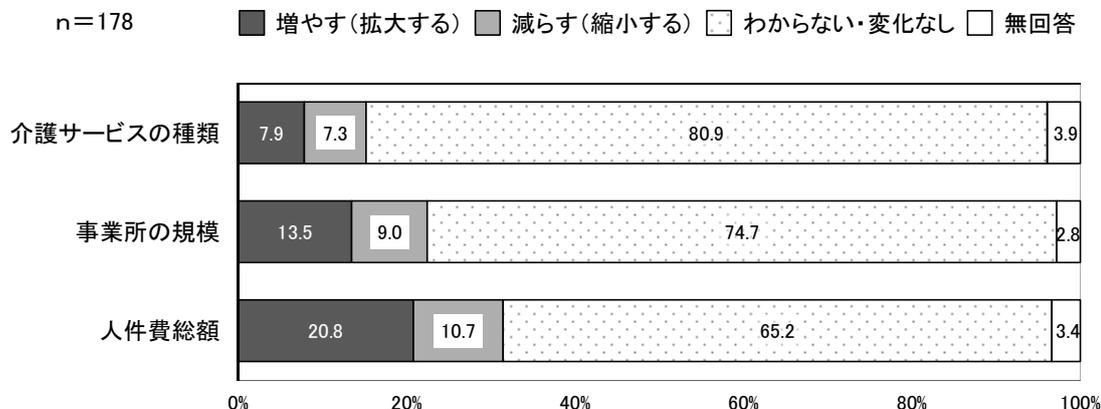
問2-1 厳しい要因（複数回答）



(3) 介護サービス事業の方向性

介護サービスの事業の方向性について、「わからない・変化なし」は介護サービスの種類で80.9%、事業所の規模で74.7%、人件費総額で65.2%

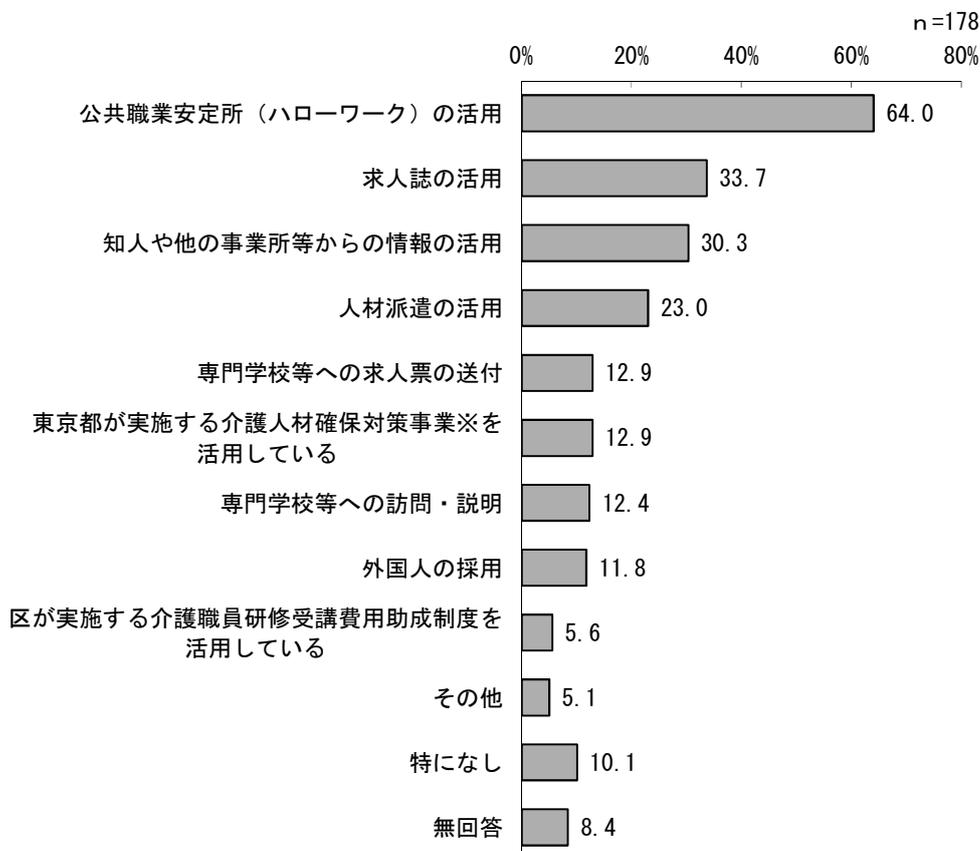
問3 介護サービス事業の方向性



(4) 実施している人材確保の取り組み

実施している人材確保の取り組みについて、「公共職業安定所（ハローワーク）の活用」が64.0%、「求人誌の活用」が33.7%、「知人や他の事業所等からの情報の活用」30.3%

問7 実施している人材確保の取り組み（複数回答）

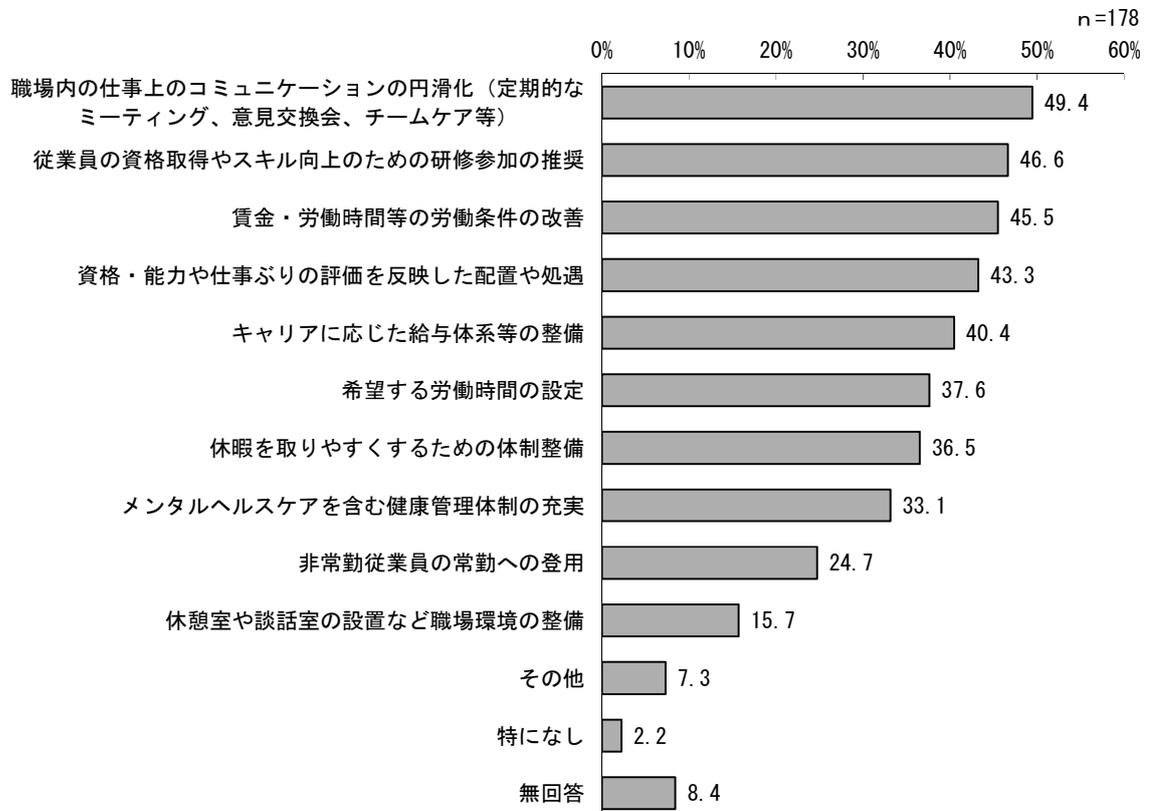


※東京都が実施する介護人材確保対策事業：職場体験事業、介護職員初任者研修資格取得支援事業、トライアル雇用

(5) 実施している人材定着の取り組み

実施している人材定着の取り組みについて、「職場内の仕事上のコミュニケーションの円滑化」が49.4%、「従業員の資格取得やスキル向上のための研修参加の推奨」が46.6%

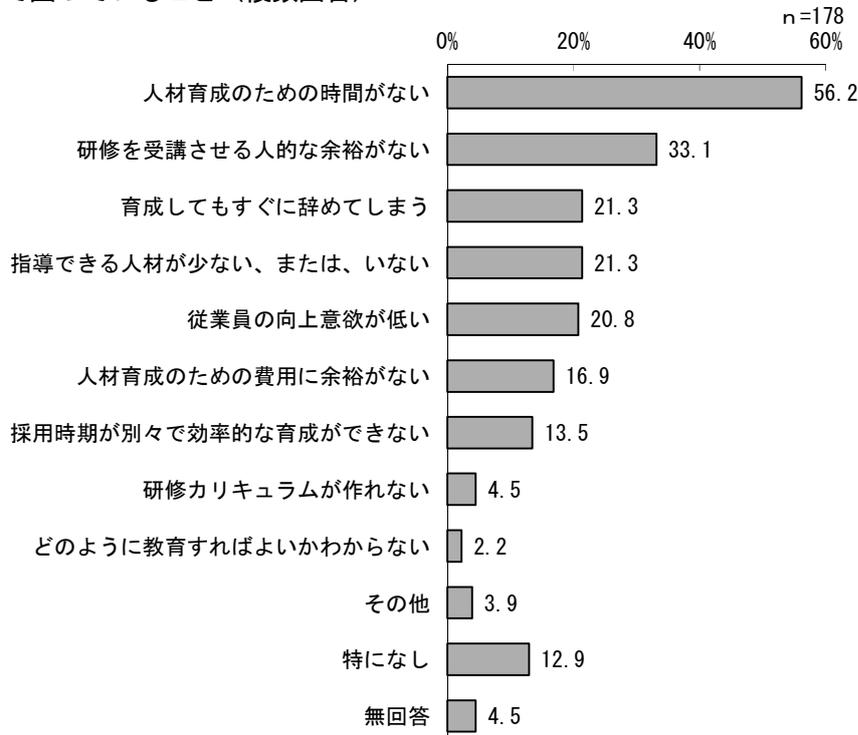
問8 実施している人材定着の取り組み（複数回答）



(6) 従業員教育で困っていること

従業員教育で困っていることについて、「人材育成のための時間がない」が56.2%、「研修を受講させる人的な余裕がない」が33.1%

問20 従業員教育で困っていること（複数回答）

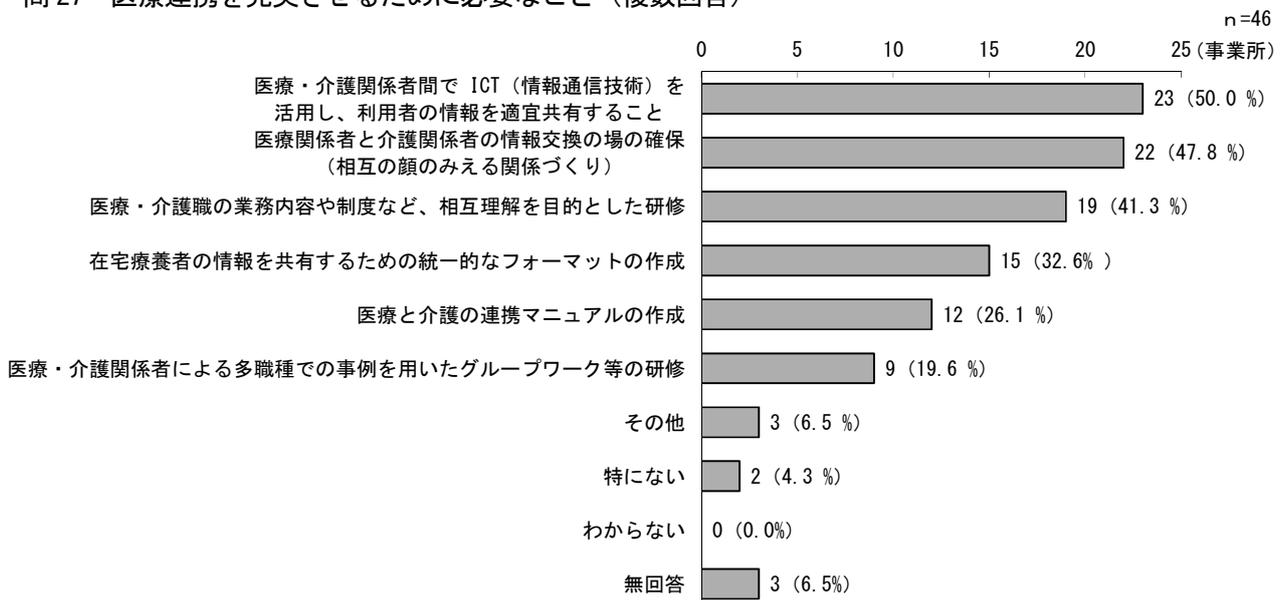


■ ここからは居宅支援事業所に対する設問

(7) 医療連携を充実させるために必要なこと

医療連携を充実させるために必要なことについて、「医療・介護関係者間で ICT（情報通信技術）を活用し、利用者の情報を適宜共有すること」が23事業所（50.0%）、「医療関係者と介護関係者の情報交換の場の確保（相互の顔のみえる関係づくり）」が22事業所（47.8%）

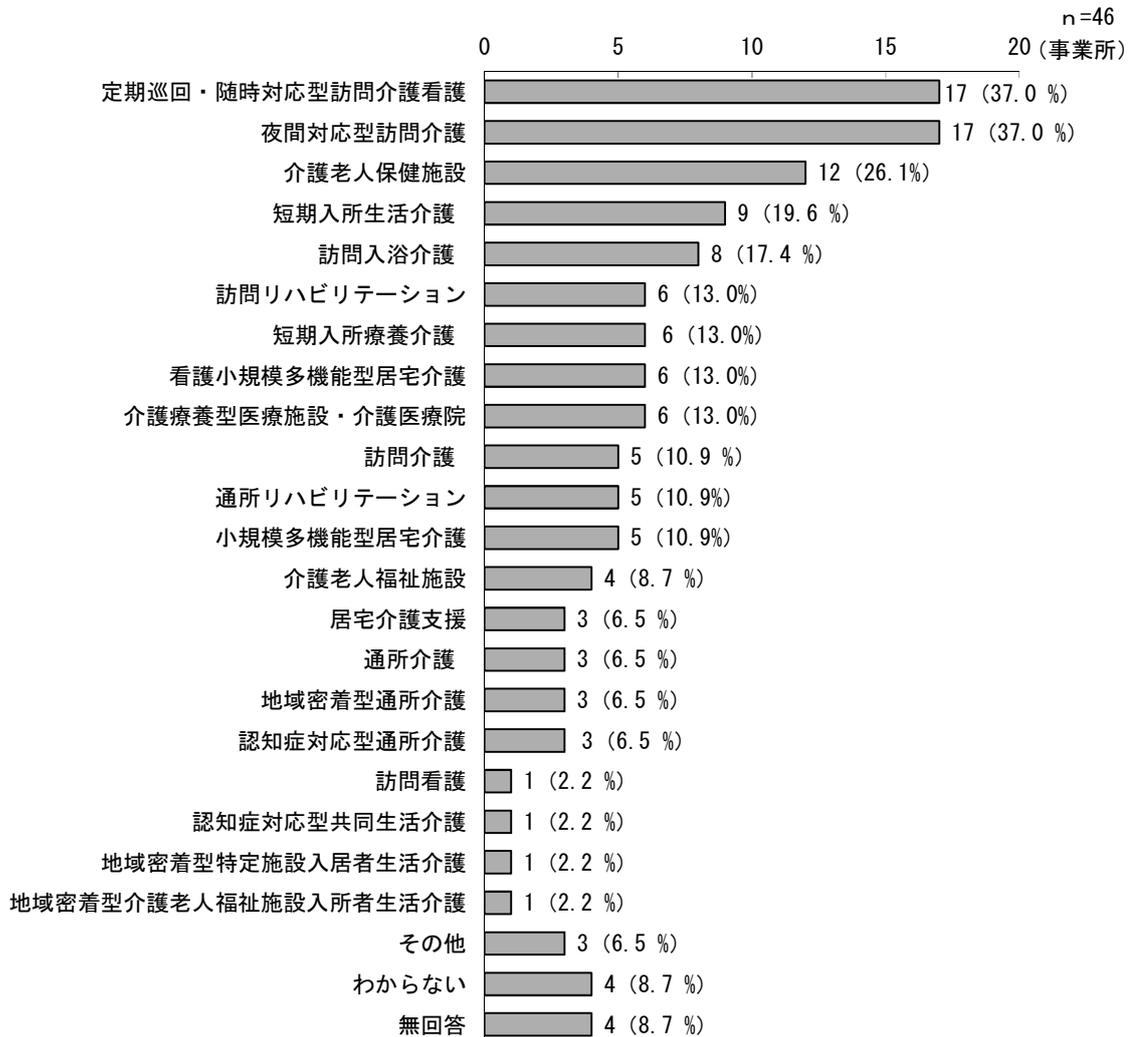
問27 医療連携を充実させるために必要なこと（複数回答）



(8) 不足していると感じるサービス

不足していると感じるサービスについて、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」および「夜間対応型訪問介護」が17事業所(37.0%)、「介護老人保健施設」12事業所(26.1%)

問30 不足していると感じるサービスについて(複数回答)

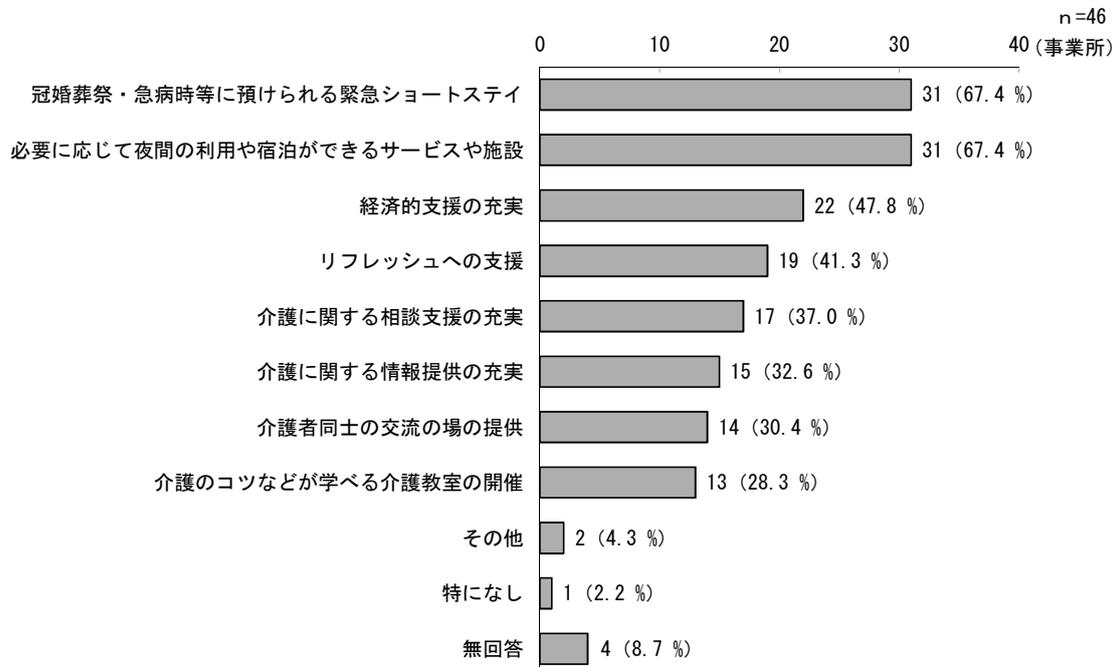


※居宅療養管理指導、特定施設入居者生活介護、福祉用具貸与、特定福祉用具販売、住宅改修は0件のため省略している。

(9) あると良い在宅介護者への支援

あると良い在宅介護者への支援について、「冠婚葬祭・急病時等に預けられる緊急ショートステイ」、「必要に応じて夜間の利用や宿泊ができるサービスや施設」が 31 事業所 (67.4%)

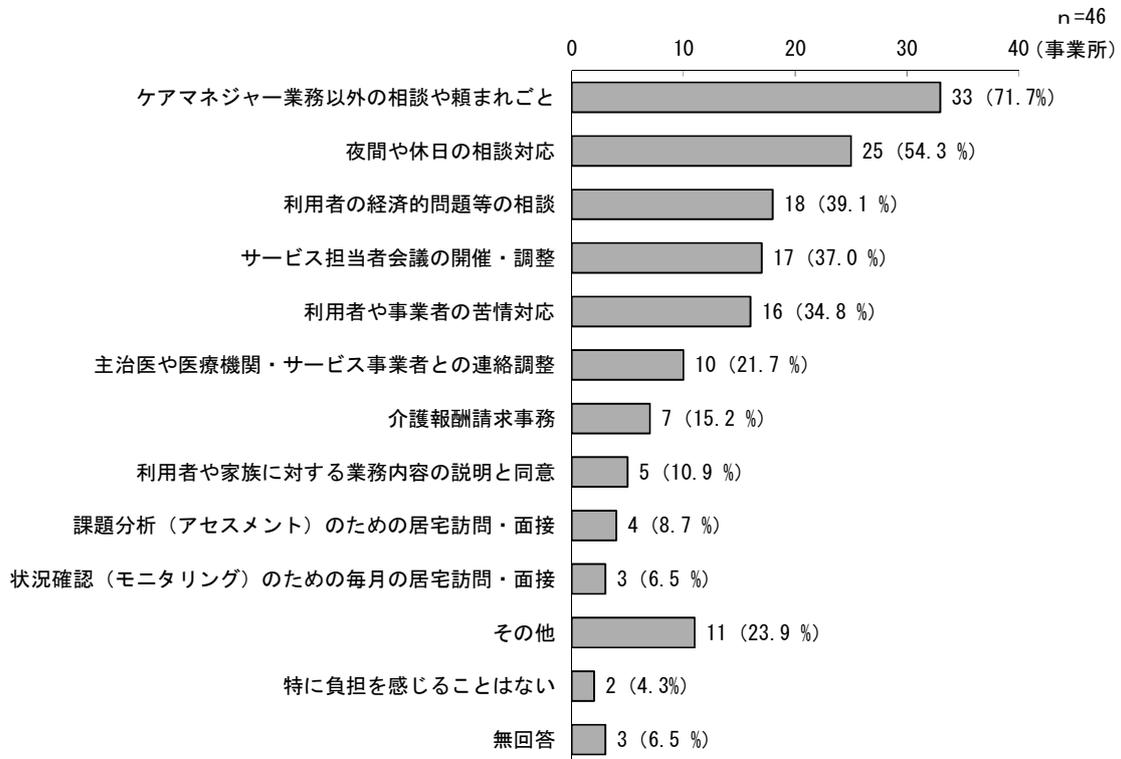
問 32 あると良い在宅介護者への支援 (複数回答)



(10) ケアマネジャーが感じている負担

ケアマネジャーが感じている負担について、「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと」が33事業所（71.7%）、「夜間や休日の相談対応」が25事業所（54.3%）

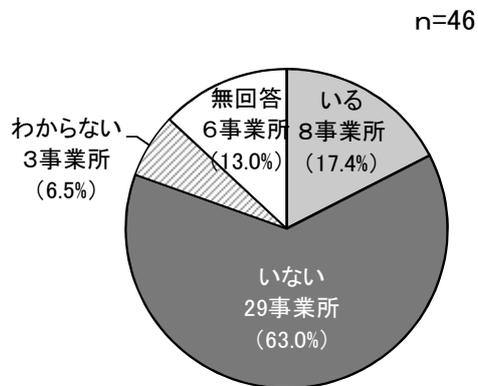
問34 ケアマネジャーが感じている負担（複数回答）



(11) ダブルケアの把握状況

ダブルケアとして把握している人が、「いない」が 29 事業所 (63.0%)、「いる」が 8 事業所 (17.4%)

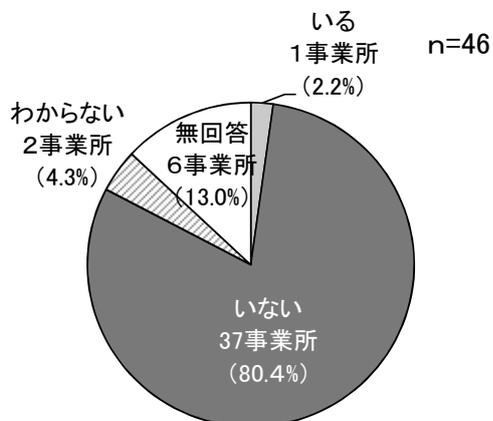
問 35-1 ダブルケアの把握状況



(12) ヤングケアラーの把握状況

ヤングケアラーとして把握している人が、「いない」が 37 事業所 (80.4%)、「いる」が 1 事業所 (2.2%)

問 36-1 ヤングケアラーの把握状況



台東区高齢者実態調査報告書 概要版

令和5年2月発行（令和4年度登録第6号）

台東区 福祉部
高齢福祉課 介護予防・地域支援課 介護保険課
〒110-8615 台東区東上野4-5-6
電話 03-5246-1221

